

令和5年度 研究紀要

研究主題

主体的に課題を見付け、
探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～ESDの視点による教育活動の推進～



世田谷区立玉堤小学校

はじめに

校長 伊藤 修久

現在、世界には、環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題が存在しており、我々の身近なところにも関連する様々な課題が存在しています。

今こそ、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていく必要があります。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、これらの現代社会の課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

学習指導要領前文では、「一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となること」が求められています。

本年度は、本校の教育課程全体で、生活科・総合的な学習の時間を教育課程の中心に据え、研究主題「主体的に課題を見つけ、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成～ESDの視点による教育活動の推進～」を掲げ、ESDで育成を目指す資質・能力 (ESD for 2030) を身に付けることを目指しました。

ESDを通して、「せたがや探究的な学び」の視点で授業改善をし、持続可能な創り手として、課題を追究したり、課題を解決したりする児童を育成したいと考えたのです。

今年度は、環境をテーマに掲げ、内容を絞りました。様々なアクションを通して、子供たちは体験を通して学び、生活科・総合的な学習の時間発表会において、友達と共に協力して活動し、他学年や保護者に向けて、自分たちで考えたこと表現し、表現力も伸びました。

アンケートから、この研究を通して子どもたちは、生活科と総合的な学習が好きな児童が 80%～90%に増えました。また、1・2年生では、児童が受け身の学習から主体性や目的をもって考える学習へと変わりました。繰り返し、見通しをもって活動する学習が功を奏しました。3年生では、知りたいことをまとめる力や発表する力が高まりました。4年生では、友達と協力しながら取り組む大切さと自信をもって発表する力を身に付けました。5年生では、年間を通して思考ツールを使って考えを整理する学習活動を行い、自分で思考ツールを選択するといった効果が出てきました。6年生は、児童の興味や関心を大切にしながら学習を進めてきたので自分でめあてを決め、調べて分かったことをまとめて伝えるという学習を楽しみながら意欲をもって取り組むことができるようになりました。このように探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成につながったと考えております。

また、カリキュラムマネジメントを意識してESDカレンダーを作成することで、来年度への見通しをもつことができました。

本年度も一年間にわたりご指導・ご助言いただきました 前全国小中学校環境教育研究会 会長 棚橋 乾先生に改めて感謝申し上げます。また、世田谷区 教育委員会 指導主事 高橋 裕也先生にもご助言をいただきましたこと感謝申し上げます。

I 研究の概要

<研究主題>

主体的に課題を見付け、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～ESDの視点による教育活動の推進～

1 主題設定の理由

世田谷区立玉堤小学校付近には、多摩川や等々力溪谷など豊かな自然が多く、児童が自然をより身近に感じることができる。以前より、玉堤小学校の特色ある活動として、多摩川や等々力溪谷の植物や生き物を調べる活動を継続して行ってきた。またその際には、地域の方やその自然を保全している方たちと連携して学びを進めてきた。これまで行ってきた玉堤小学校の教育活動とESDの視点に立った学習指導には共通点も多く、地域の自然や施設、人々と連携した学習活動をさらに広げることで、本校の特色ある教育活動につながると考えた。また、「せたがや探究的な学び」を通じた授業改善に取り組むことで、将来、自己実現を図りために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していきたいと考え、主題を「主体的に課題を見付け、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成」とした。探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返すことで、児童自身が意欲的に探究活動を進めることができるようになり、様々な学びにつながる研究を目指していきたい。

2 研究の視点

<玉堤小学校が重視するESDの視点>

玉堤小学校では、2019年ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」より育成する資質・能力を以下に設定した。

【認知】問題解決能力、総合的思考力

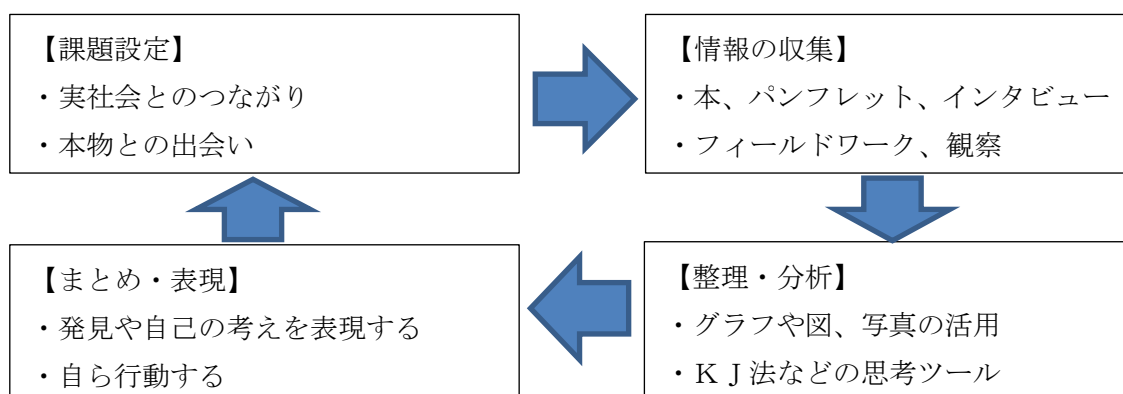
【社会的情動】多様性の尊重、創造性・新たな価値を創造する力

【行動】責任ある社会的行動力、環境に配慮したライフスタイル

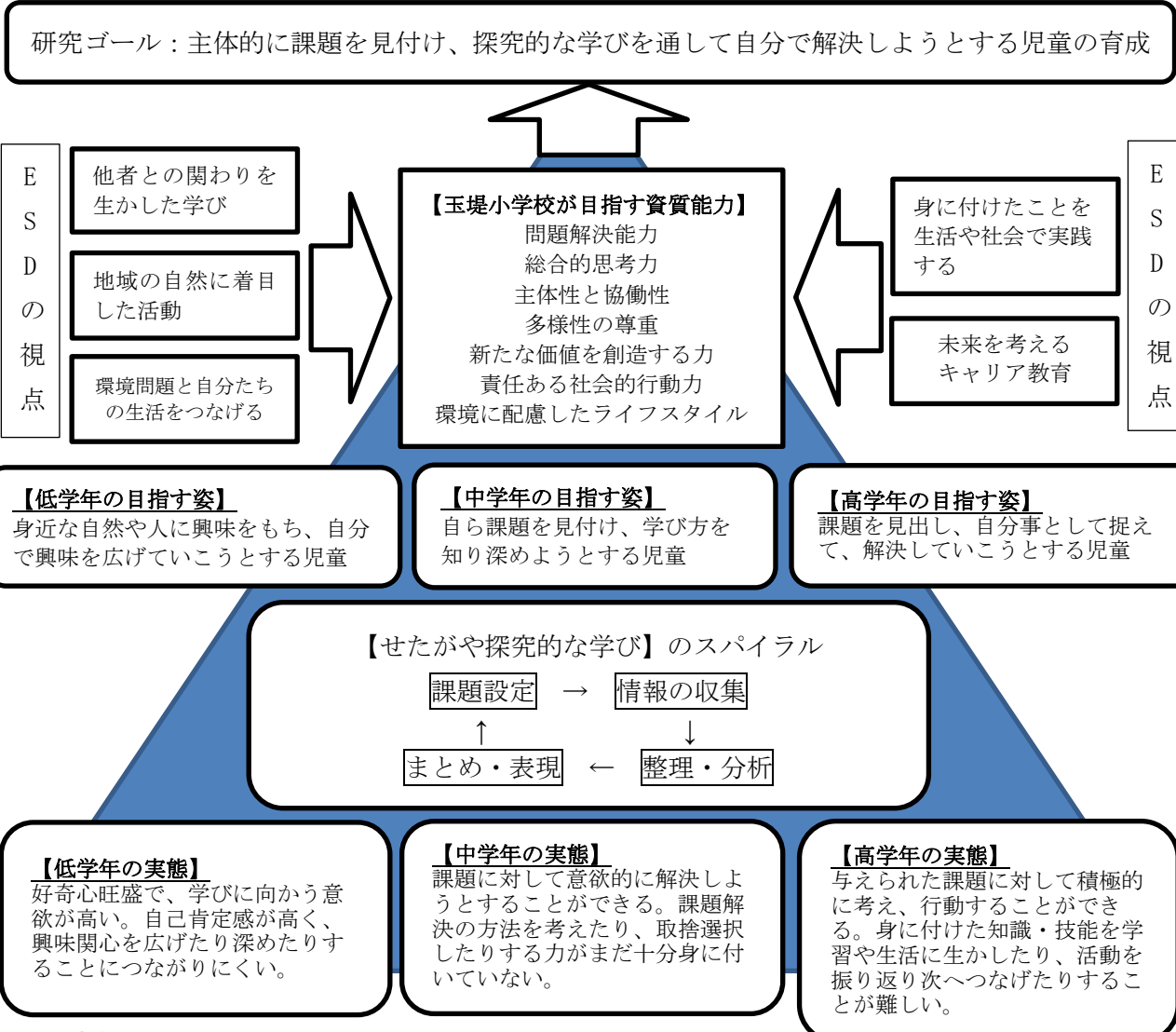
せたがや探究的な学びを通して、ESDの視点で授業改善をし、「主体的、対話的で深い学び」を実現することで、持続可能な社会の創り手として、課題を追究したり、解決したりすることができる主体的な児童の育成をめざすこととした。

<探究的な学びの視点>

生活科や総合的な学習の時間を通して、繰り返し地域の人・自然・社会と関わりながら問題解決的な学習を行う中で、玉堤小学校が重視する資質や能力を育み、環境や地域社会のために行動することの大切さを学ぶ。



<今年度の研究イメージ>

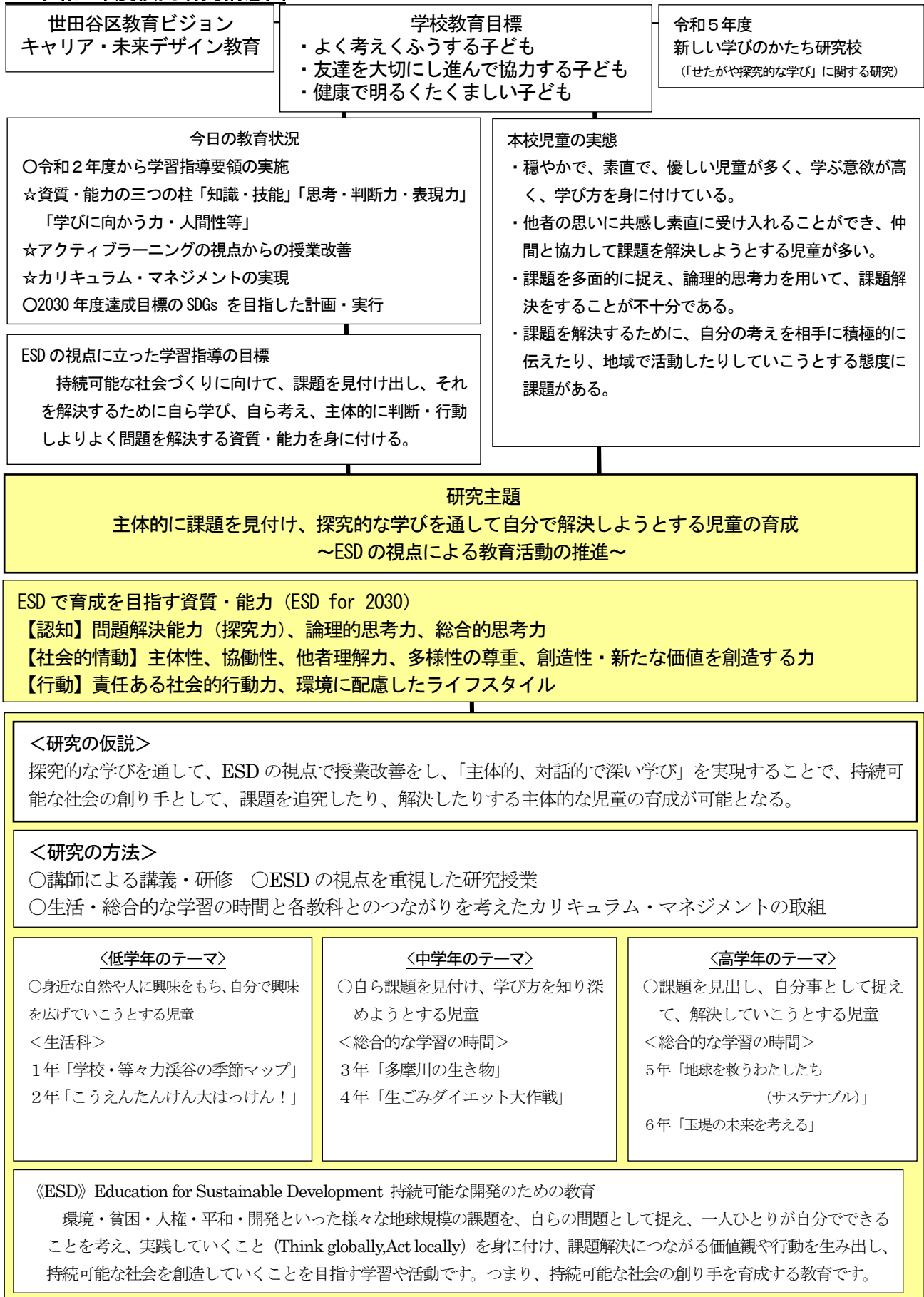


3 研究経過

下記の計画に基づき校内研究に取り組んだ。

	校内全体会	内 容	講師の先生
①	4月 7日 (金)	研究の概要・模擬授業	
②	5月24日 (水)	基調講演	
③	6月14日 (水)	教材開発・教材研究	
④	7月12日 (水)	研究授業①[2年]	
⑤	9月27日 (水)	研究授業②[6年]	
⑥	10月25日 (水)	研究授業③[5年]	
⑦	11月29日 (水)	研究授業④[3年]	
⑧	12月13日 (水)	研究授業⑤[1年]	
⑨	1月24日 (水)	研究授業⑥[4年]	
⑩	2月14日 (水)	成果と課題 次年度の研究に向けて	

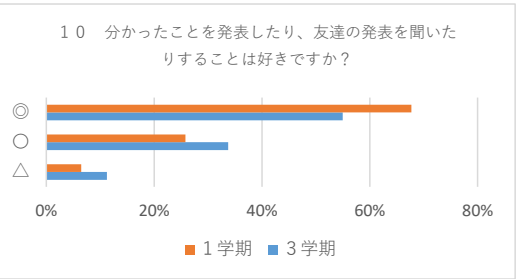
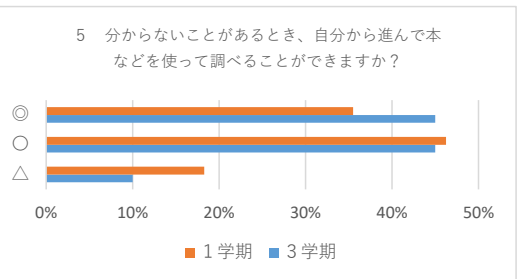
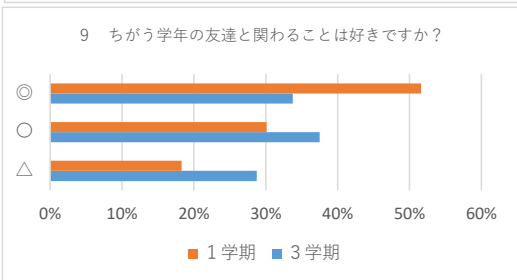
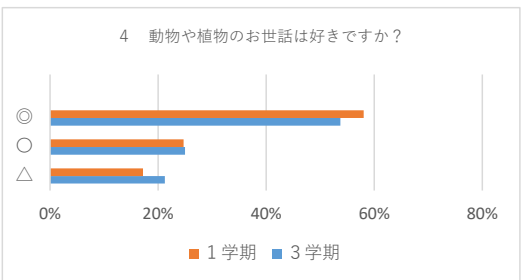
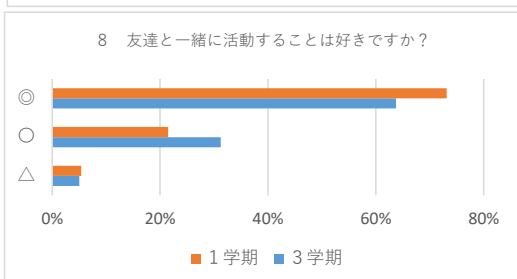
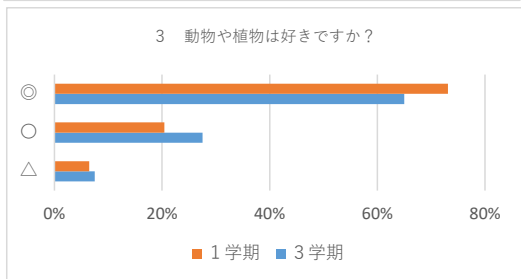
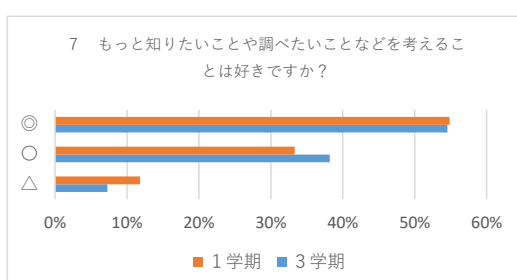
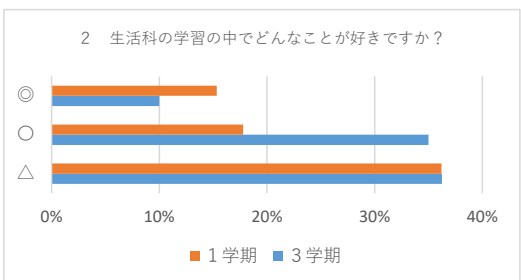
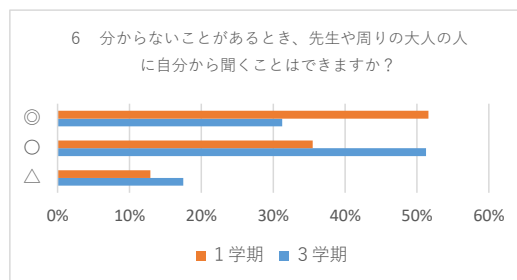
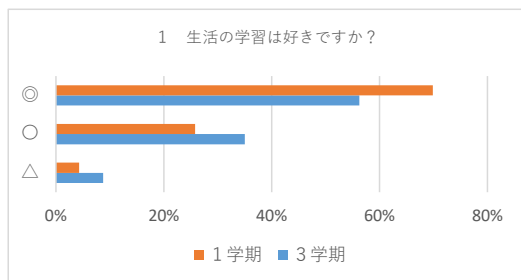
4 令和5年度校内研究構想図



II アンケート

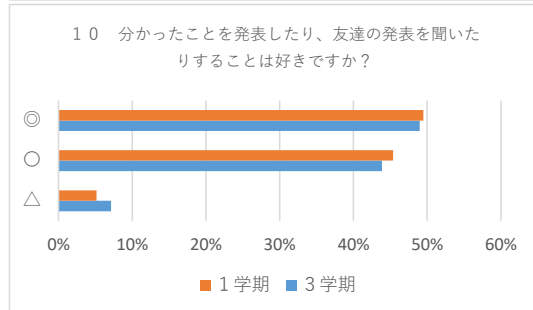
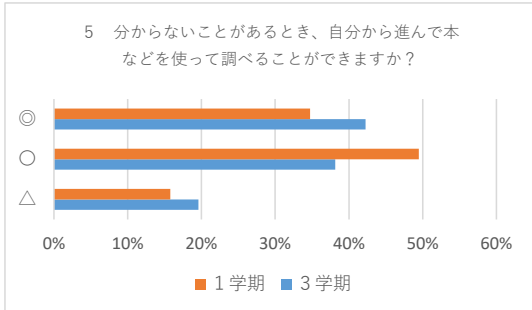
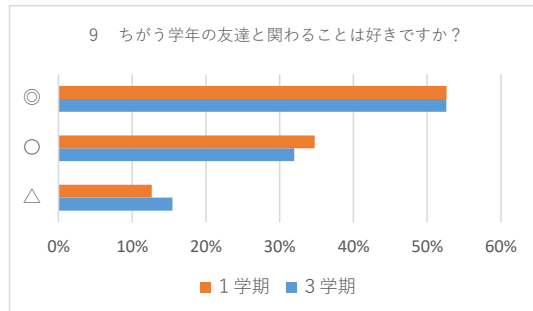
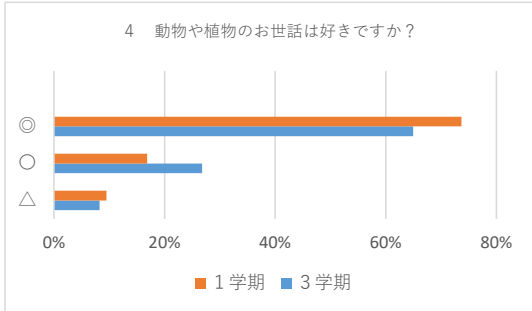
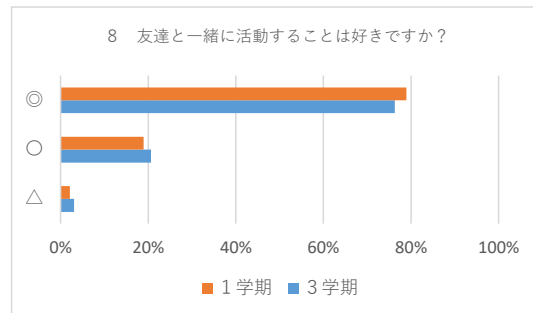
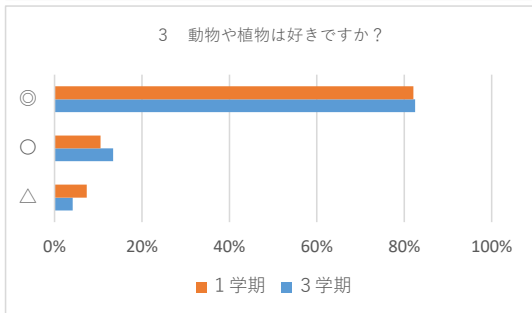
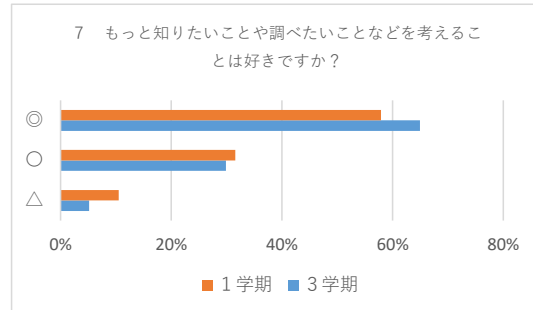
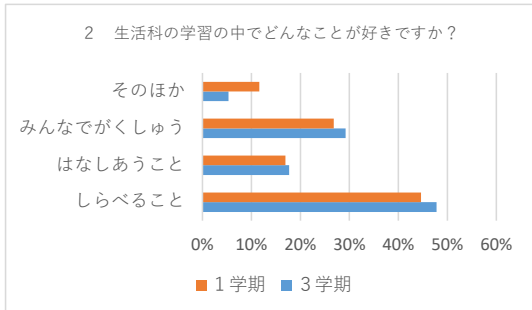
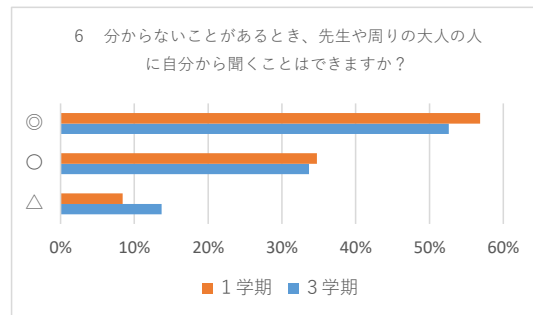
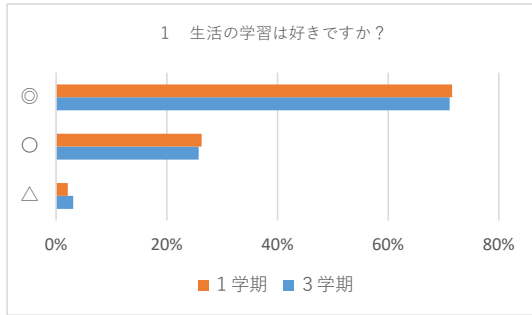
研究を通して、児童の生活科、総合的な学習の時間についての意識の変容、成長を調査するために、1学期と3学期の計2回アンケート調査を行った。1回目と2回目は全く同じ質問項目で調査を実施した。質問項目と調査結果については以下の通りである。

(1年生)



年度当初は、初めての学校生活で、2年生と行う「学校探検」や「アサガオの観察」「等々力渓谷散歩」など見たり聞いたりすることが多いため、質問6「分からないことがあるとき、先生や周りの大人の人に自分から聞くことはできますか？」や質問9「ちがう学年の友達と関わることは好きですか？」の◎の回答が多くみられる。一方学校生活に慣れてきた2、3学期は、自分で作り方を決めて調べる「あきのおもちゃづくり」や幼稚園保育園生に向けて学校の楽しさを伝える「もうすぐみんな2年生」の学習があったため、質問10「わかったことをはっぴょうしたり、ともだちのはっぴょうをきいたりすることは好きですか？」の○の回答が増加している。このことから受け身的であった生活科の学習から主体性や目的をもって考える学習へと児童の中で意識が変容したと考えられる。

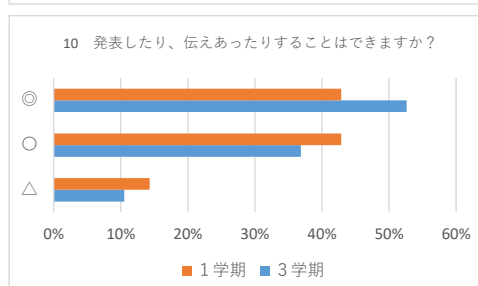
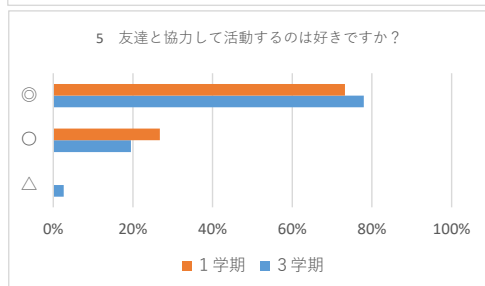
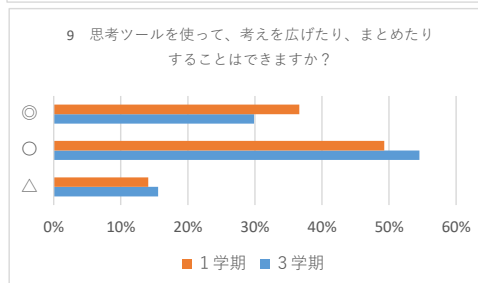
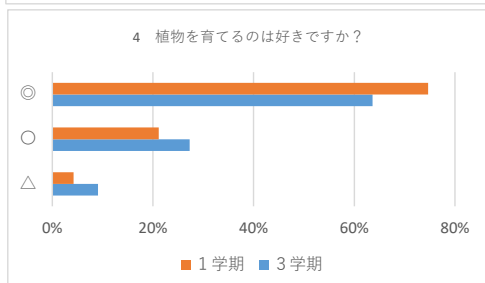
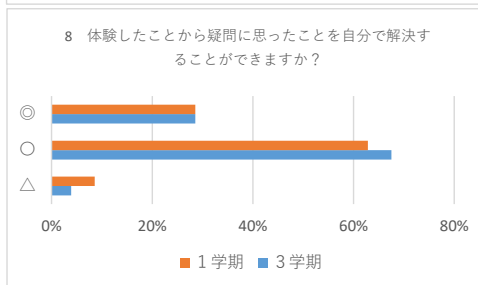
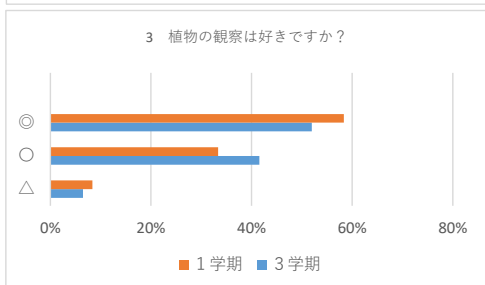
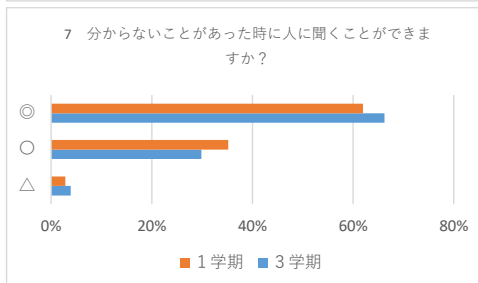
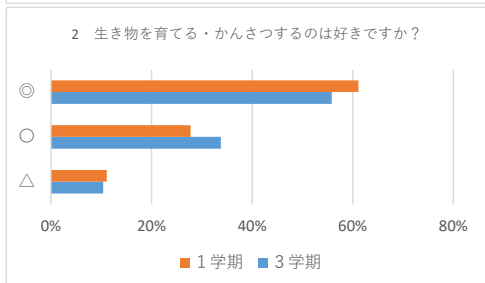
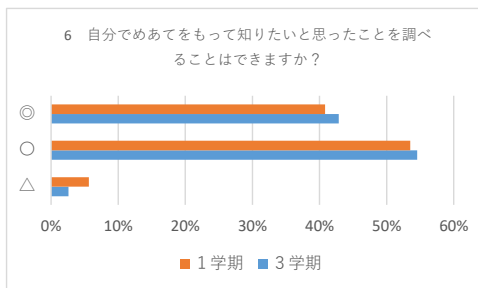
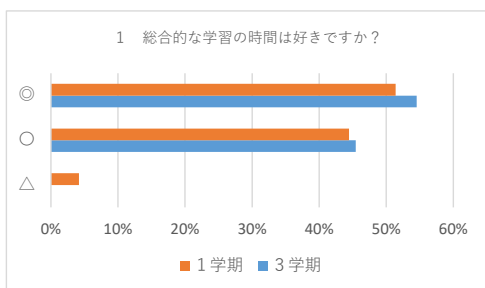
〈2年生〉



年度当初より生活科の学習が好きな児童が多かったが、主体性には欠けるという実態があった。しかし、「5 分からないことがあったとき、自分から進んで本などを使って調べることができますか？」や「7 もっと知りたいことやしらべたいことなどを考えることは好きですか？」の質問では、「◎」「○」と回答した児童の割合が増加が見られるようになった。

探究的な学びを繰り返し、見通しをもって活動する学習を年間を通して行ったことが成果に繋がっていると考えられる。しかし、変化は流動的で、今後も継続して取り組んでいくことが重要と考える。

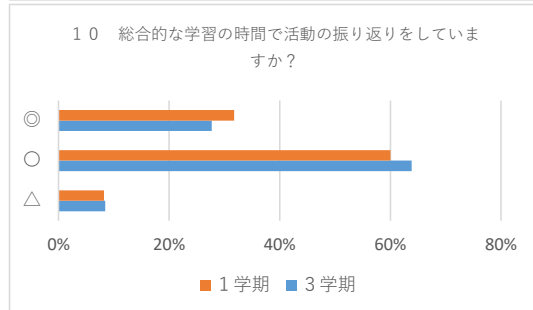
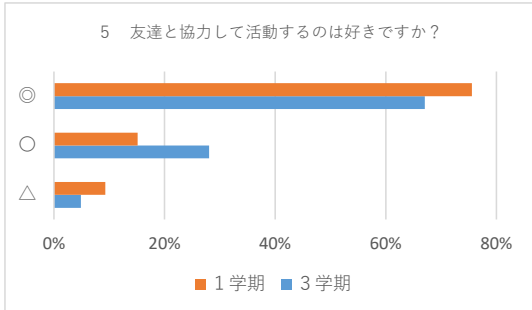
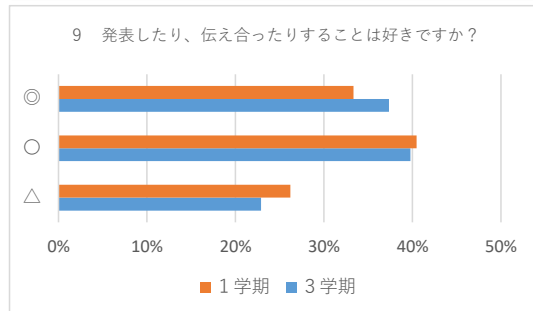
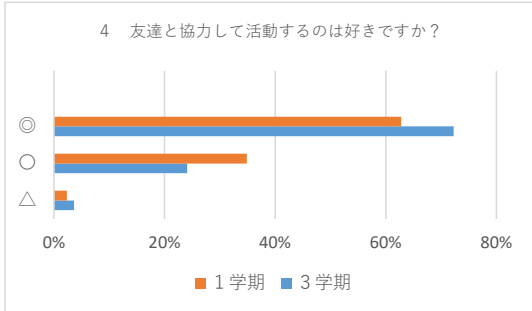
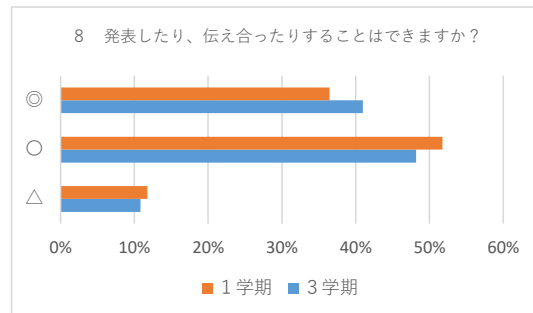
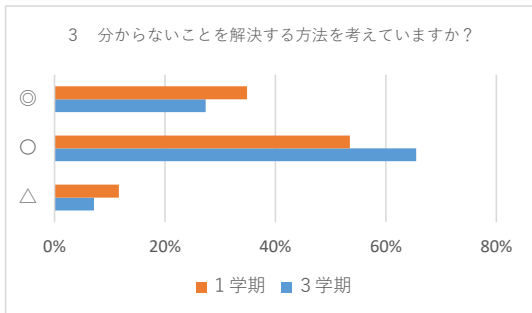
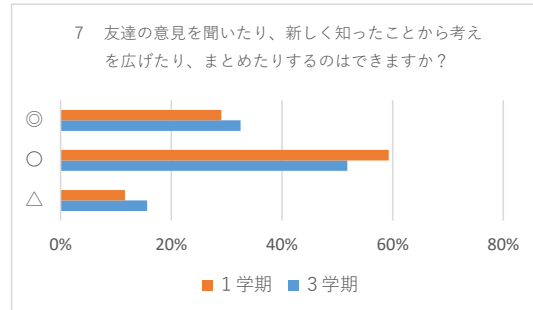
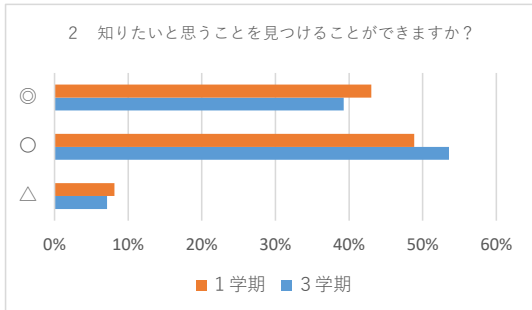
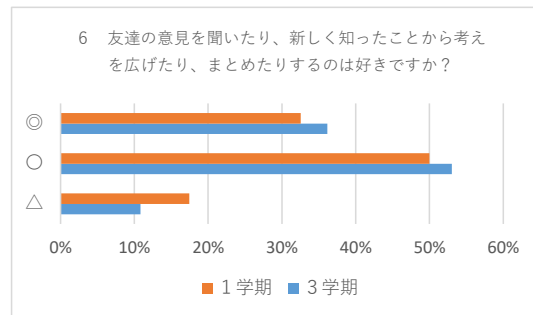
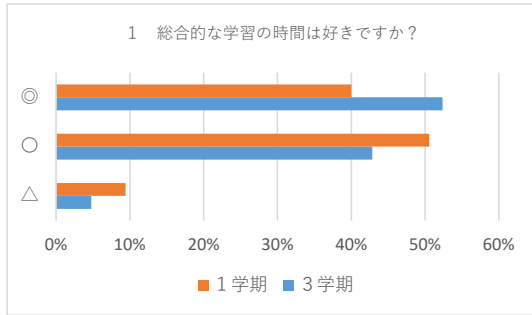
〈3年生〉



全体的に◎○の数が微増していると思われる。総合的な学習の時間が好きな子どもが多いが、年間通じて興味をもって活動に取り組んだことが伺える。「分からないことがあった時に人に聞くことができるか」「体験したことから疑問に思ったことを自分で解決することができるか」「発表したり、伝えあったりすることはできるか」という質問に対して◎○の割合が少し増えた。

総合的な学習の時間を通して、知りたいことをまとめる力や発表する力が高まっている。様々なチャートを計画的に活用していくことが必要だと考えられる。

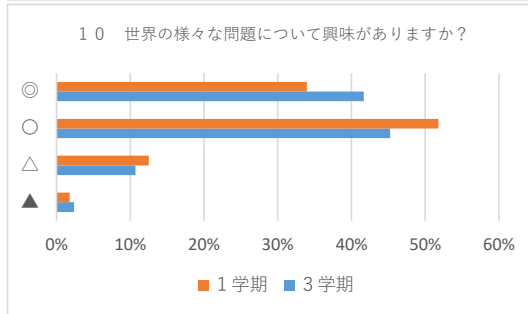
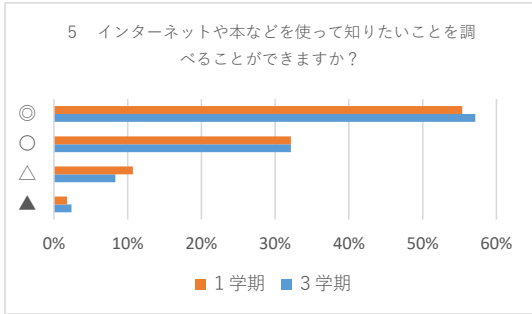
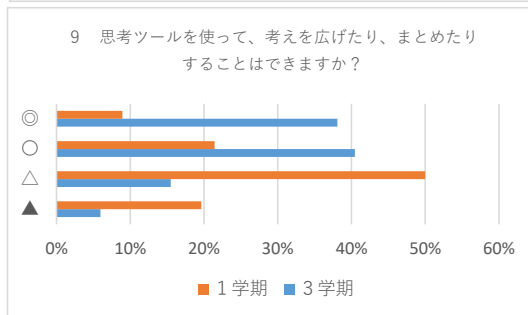
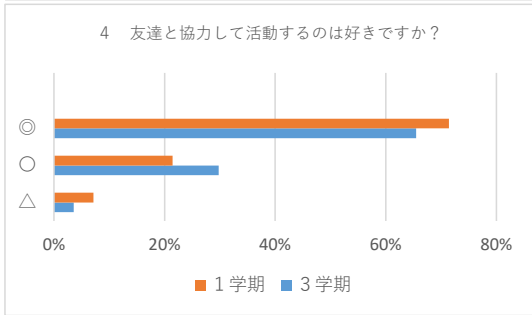
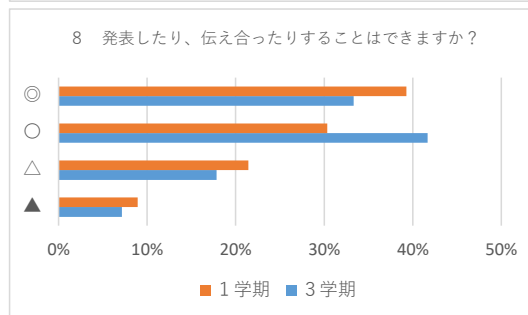
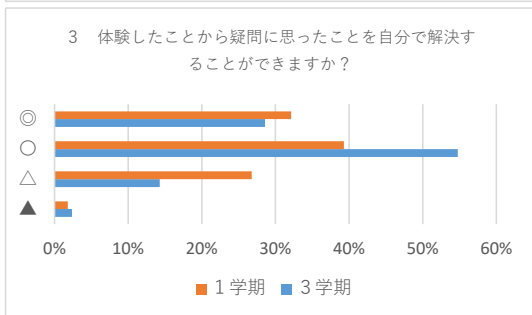
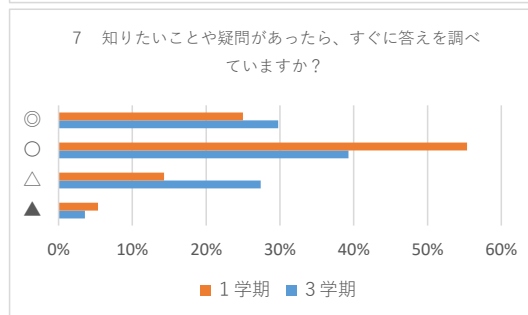
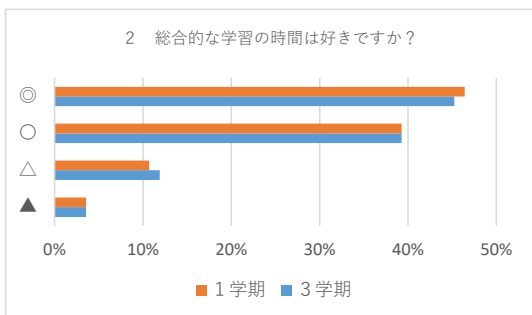
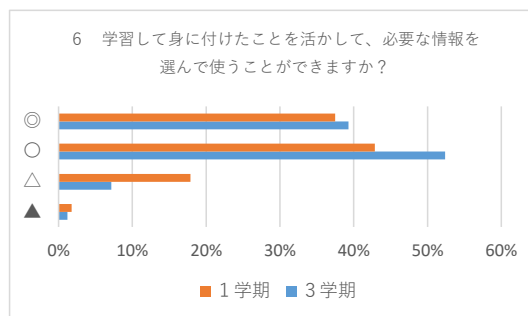
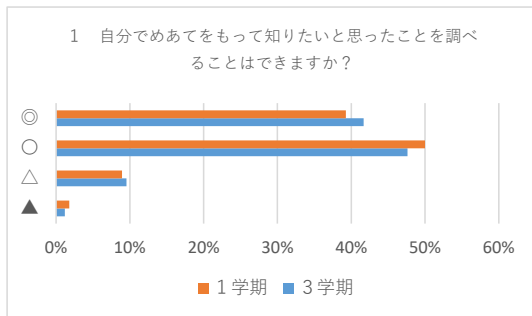
〈4年生〉



「友達と協力して活動する」の項目で、3学期の改善が見られた。グループでの活動の中で、友達の考えを共感的に受け入れて聞く力が伸びてきた。また、分からないことをそのままにせず、友達と協力しながら探究的に解決しようとする姿も見られるようになってきた。

各学期のグループでの発表活動を通して、苦手意識をもっていた児童も少しずつ自信をつけてきたように感じる。子どもたちは、一人一人が課題意識をもったことについて、同じ課題をもつ友達とグループを作り、意見を出し合いながら解決方法を考え、実践したことについて分析し、発表する活動を通して、友達と協力しながらと取り組むことの大切さと、自信をもって発表する力を身に付けたように感じる。

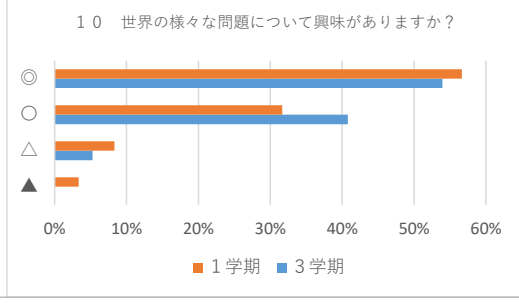
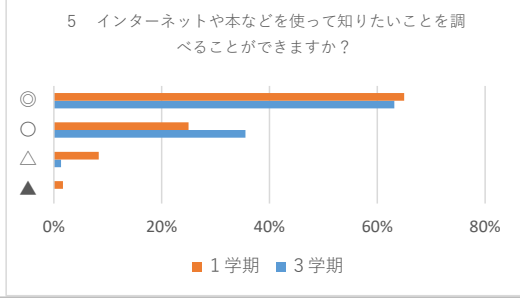
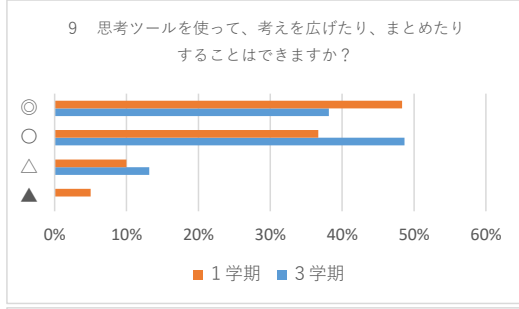
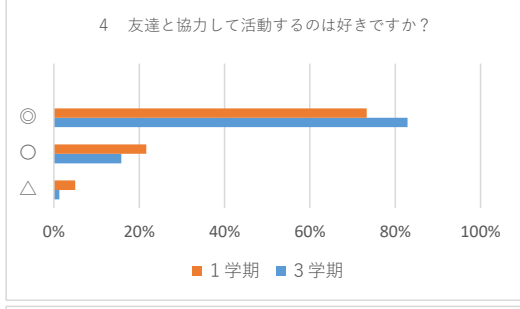
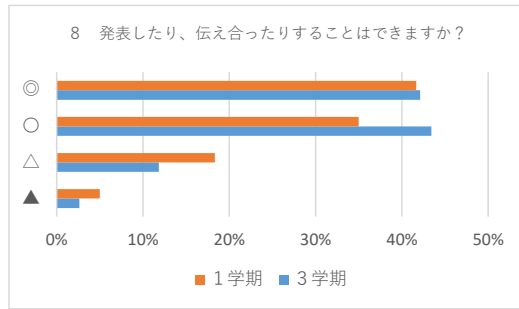
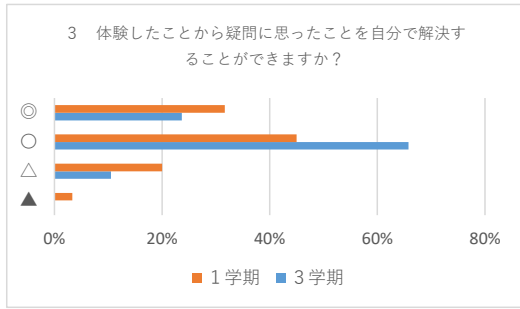
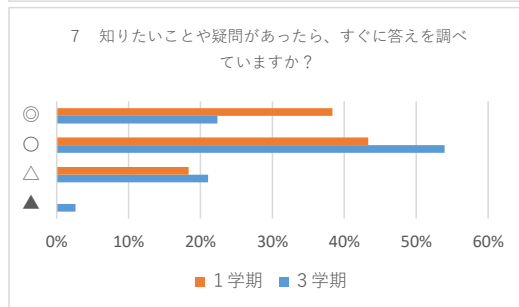
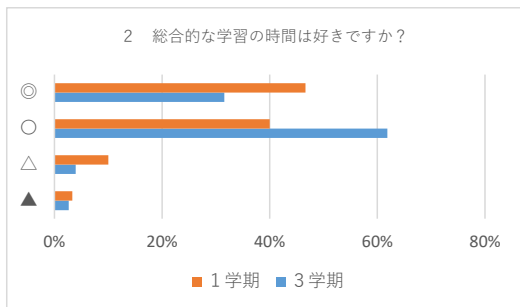
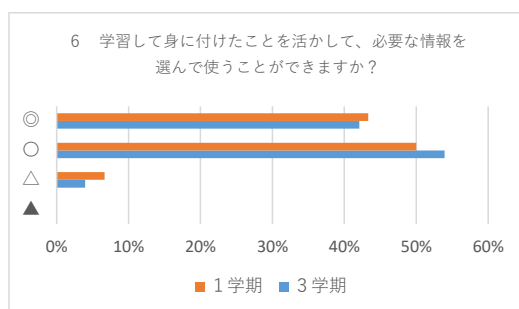
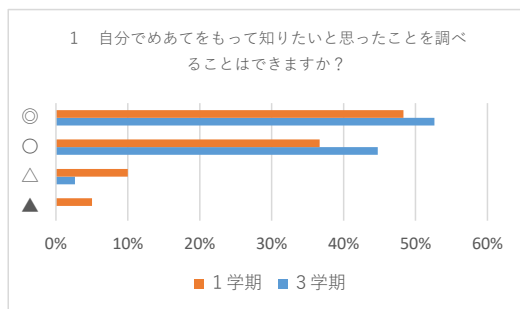
〈5年生〉



全体的に、「◎」「○」と回答した児童の割合が増加している傾向にある。「9 思考ツールを使って、考えを広げたり、まとめたりすることはできますか？」の質問では、「◎」「○」と回答した児童が、20パーセント以上増加している。しかし、「7 知りたいことや疑問があったら、すぐに答えを調べていますか？」の質問では、「○」と答えていた児童が「△」に移った結果となっている。

児童が思考ツールを使って考える学習を年間を通じて行った成果が出ている。しかし主体的に調べるのではなく、受動的に行動しようという考えをもつ児童が増加している傾向にあると考えられる。

〈6年生〉



全体的な傾向として、△、▲を選択した児童が減少し、○を選択する児童が増える結果になった。特に「1自分でめあてをもって～」「2総合的な学習の時間は好きですか?」「8発表したり、伝え合ったり～」の質問で顕著な変容が見られた。その反面、「7知りたいことや調べたいことがあったら～」では、◎が16%減少し、△や▲の割合が増加した。

教師から問うのではなく、児童の興味や関心を大切にしながら学習を進めてきたことで、自分でめあてを決め、調べて分かったことをまとめて伝えるという学習を楽しみながら意欲をもって取り組むことができるようになったと考えられる。7の質問については、知りたいことをすぐに調べるのではなく、まず自分なりに予想して、考えてから調べるという社会科などでの学習の成果であり、この変容は児童の成長であると考えられる。

～1年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見つけ、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～E S Dの視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 何事にも意欲的に取り組むことができる。
- 自分の意見を伝えることが好きである。
- ▲自分たちで創意工夫することが苦手である。
- ▲他人の話を最後までよく聞いていない。

2 目指す児童像

○身近な自然や人に興味をもち、自分で興味を広げていこうとする児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

- **指導計画の工夫**
 - ・「課題把握・課題解決・協働・振り返り」のスパイラル
- **シンキングツールの活用**
 - ・ピラミッドチャート
- **主体性を育む工夫**
 - ・等々力溪谷や多摩川などの地域環境とのふれあい

【共感・協働】

- **地域・保護者との連携**
 - ・近隣の保育園、幼稚園
 - ・保護者
- **授業形態の工夫**
 - ・全体、グループ、個人
- **I C Tの活用**
 - ・写真、動画の共有

第1学年 生活科学学習指導案

令和5年12月13日（水）5校時

1年2組29名

1 単元名 もうすぐみんな2ねんせい

2 単元について

(1) 単元の捉え方

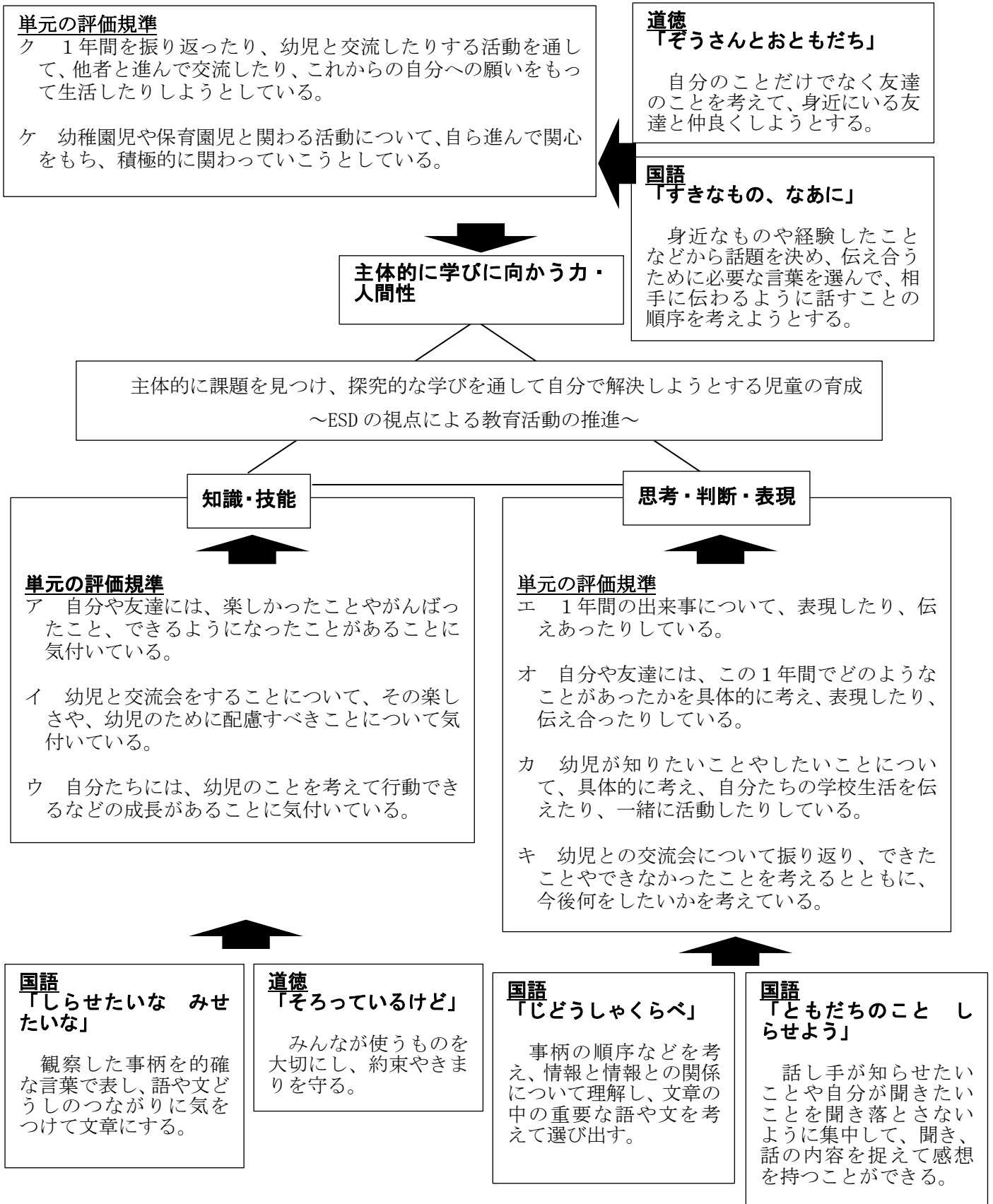
本単元は、幼稚園児や保育園児に小学校生活の魅力を伝えるという目的を通して、自然のよさや自然が楽しいものであることに気づき、親しみをもたせたいと考える。

子どもたちは一年間で多くの生活経験を積んできた。小学校生活の魅力を伝えるにあたって、本校の地域にある自然を使った活動を考えさせていく。そのために、一学期では都市部で昔からの自然が残る等々力溪谷での散策を行い植物や自然に親しんだ。二学期には校庭と多摩川で虫取りを行い、生き物に親しみ、遠足では多摩川台公園で、どんぐりやまつぼっくり拾いなど自然採集に親しんだ。この経験を基に、自分たちで気付いたことや知ったことをまとめていくことで自然に興味関心を持ち、親しみをもつ中で、生き物や植物に触れ、自然のよさに気付くようにさせたい。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

本単元では、一年生という発達段階において探究のプロセス（課題把握・課題解決・協働・振り返り）の中で、課題把握と協働に重きを置いている。課題把握では、自分たちより年齢が下の園児たちに学校生活の楽しさを伝えるという目標を設定し、園児に分かりやすく説明するという課題があることに気付かせる。課題解決では、伝えるための方法を自分たちで考える。また、協働では、個人で考えた方法の中から話し合っ一つを選び、選んだ方法を実現するために友達と協力しながらグループワークをする。その後完成したものを園児らに発表する。振り返りでは、自分たちがやってきた過程を振り返っていくとともに、園児たちの反応から自分たちのよかった点や反省点などに気付かせる。このように単元を4つのプロセスで区切りつつ、課題把握や協働の中でも細かなこのサイクルを取り入れることで、せたがや探究的な学びの流れを理解し、次の展開への見通しをもてるようになることを考える。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	・自分たちの学校生活を振り返り、身近な人に分かったことや考えたことを発表するために、主体的に話し合いに参加したり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
問題解決能力	・園児たちに分かりやすく伝えるという課題を把握し、自分で興味を広げ、そのために効果的な方法は何かを考え意見をもって活動することができる。

3 児童の実態

本学級の児童は、活発な児童が多く、誰とでも意欲的に意見を伝え合うことができる。また、ペアでの学習や活動に積極的な児童が多い。しかし、伝えることに満足し、意見を聞いて深めることが難しい。自分の意見を曲げられず固執してしまうこともある。本単元を通して、聞くことの大切さに気づき、他の意見を聞いて深めていこうとする意識をもたせていきたい。

4 単元の目標

1年間を振り返ったり、幼児と交流したりする活動を通して、他者に伝えたいことを考えたり、自分のことについて考えたりし、他者と関わることのよさや、1年間で学習したこと、知ったことに気づくとともに、これからの自分の成長への願いをもって生活したりすることができるようにする。

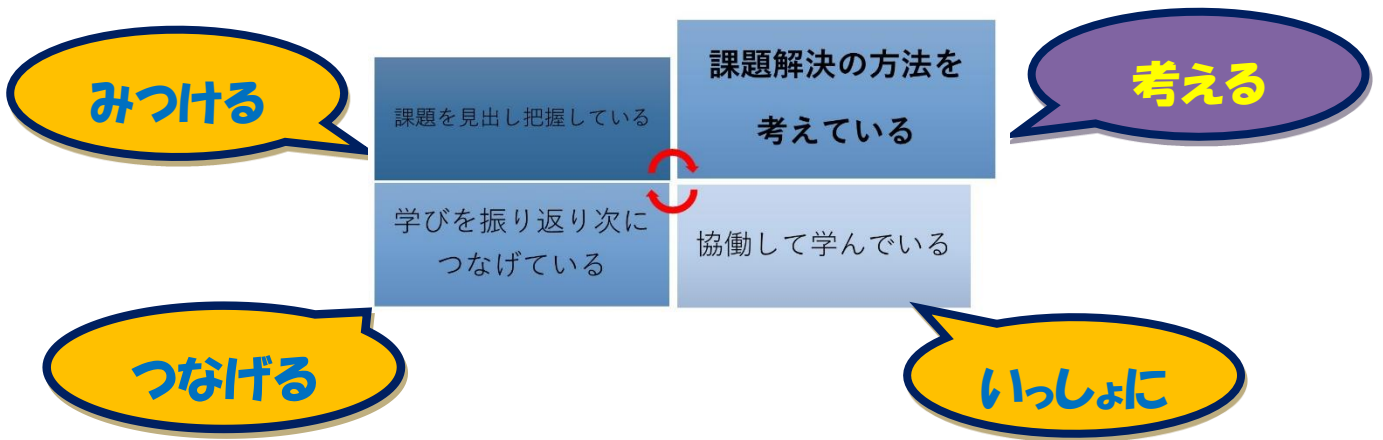
5 単元の指導計画 16時間

	ねらい	課題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
一 ねんかん どんなこ とがあっ たかな(2)	入学してからの出来事を思い出し、1年間の学校生活を振り返ることができるようにする。	見つける① 見つける①	○入学してから今までの1年間の出来事を出し合う。 ○1年間の出来事の中から思い出に残った3つをピラミッドチャートで順位付けする。 ○玉堤小学校だからこそ経験、学習することができたことは何か考える。	国語「こんなものみつけたよ」	ア	エ	ク	観察 発言

つたえかた かんがえよう (2)	保育園児、幼稚園児との交流会を計画し、学校生活について幼児に工夫して伝えるなどして、楽しむことができるようにする。	考える、一緒に① (本時)	○保育園児、幼稚園児にどのように伝えたら分かりやすく伝わるかの課題を捉える。 ○保育園児、幼稚園児への伝え方を考え、付箋に書く。 ○自分の考えをグループの人に伝え合う。 ○どの伝え方が幼児によく伝わるか考え、ピラミッドチャートに示す。	国語「わけをはなそう」	イ		ケ	観察 発言 ワークシート 付箋
		考える、一緒に①	○各グループ保育園児、幼稚園児に伝えたい場所を決める。 ○他学年の発表を見学しに行く。 ○どのような伝え方にするかグループで話し合う。 ○発表の計画書を書く。	国語「ききたいなともだちのはなし」	オ		ケ	観察 発言 ワークシート
		一緒に⑧	○計画書をもとにグループごとに発表の準備をする。 ○先生方に「玉堤小学校のよいところ」インタビューをする。 ○振り返りをする。	図工「すきなものいっぱい」	イ		ク	観察 発言 ワークシート
つたえよう (3)	保育園児、幼稚園児との交流会をし、発表をする。	つなげる③	○保育園児、幼稚園児との交流会で発表をする。 ○発表会の振り返りをする。	図工「1年生をむかえるじゅんぴをしよう」		カ	ク	観察 発言 発表 ワークシート
2年生になったら… (1)	1年間を振り返り、成長した自分に気付くとともに、これからの自分の成長に思いや願いをもち、2年生からの学校生活を高めることができるようにする。	つなげる①	○1年間を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。	国語「いいこといっぱい1年生」	ウ	キ		

7 本時の指導

【せたがや探究的な学びのプロセス】



(1) 本時の目標

玉堤小学校の魅力を新1年生に伝える方法について発表し合い、分かりやすく伝える方法を考える。

(2) 本時の展開 (3/16時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 前時の学習と本時のめあてを確認する。	○前時に行った、個人の思い出ランキングや、玉堤小学校ならではの経験を振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ようちえん・ほいくえんの子につたえるほうほうをかんがえよう </div>	
2 これまでに行ってきた発表を思い出し、伝える方法を話し合う。 ・絵 ・ポスター ・おもちゃで遊んでもらう 等	○生活科だけでなく、他教科での発表経験も思い出させる。 ○これまでの学習で使ったポスターや写真を提示する。
3 個人で、できそうな発表方法を付箋に書く。	○自分たちの発表内容が伝わりやすい方法を考えさせる。 ○机間指導をし、支援が必要な児童の指導をする。

<p>4 話し合いの仕方を確認し、各グループで、伝える方法を話し合う。</p> <p>話し合いの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたことを伝える。 ・グループの人の発表を聞く。 ・聞いた後に「ききかた名人」で反応する。 <p>5 今回の活動について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに○をつける。 ・全体で発表する。 	<p>○ピラミッドチャートを使って、どの方法が園児に一番伝わるか方法か考える。</p> <p>◆どのようにしたら園児に楽しさが伝わるか、すすんで考えている。</p> <p>【オ 思考・判断・表現】(観察)</p>
---	--

(3) 板書計画

もうすぐみんな2ねんせい

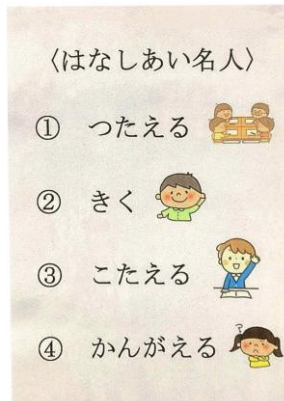
ようちえん・ほいくえんの子につたえるほうほうをかんがえよう

〈つたえるほうほう〉

絵	<p>〈はなしあい名人〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① つたえる ② きく ③ こたえる ④ かんがえる 	<p>〈ききかた名人〉</p> <p>あ ああー</p> <p>い いいね!</p> <p>う うんうん(うーん)</p> <p>え えっ!</p> <p>お おおー</p>	
---	--	---	--

8 参観の視点

- (1) 付箋やピラミッドチャートは児童が考えをもったり、整理したりすることに有効だったか。
- (2) 話型の提示により、話し合い活動が活発に行われていたか。



(1) 研究協議

① 学年より

- ・何事にも意欲的に取り組み、自分の意見を伝えることが好きだが、創意工夫をしたり、最後まで話を聞いたりすることが苦手な児童が多い。
- ・探究的な学習のスパイラル、ピラミッドチャート、環境とのふれあいを意識した。
- ・共感、協働を意識し、地域や保護者の方との連携や適切な授業形態、ICTの活用を意識している。

② 授業者自評

- ・児童は体験してきたことを伝えたい気持ちが強く、発言の中にも学習に対する意欲が見られた。
- ・ピラミッドチャートを使ってグループで学習することは初めてだったが、自分たちで完成させようと頑張っていた。

③ グループ協議より

- 付箋やピラミッドチャートを活用した活動は児童が意欲的に取り組むことができていた。
- 付箋を活用したことで、同じ意見や相違点に気付きやすかった。
- 話型の提示をしたことで、話し合い活動を活発に行うことができた。
- △何を伝えるのかがはっきりしていないため、チャートの作成が難しかった。
- △その手段を選んだ理由を伝えられるとよかった。
- △他学年の発表を見ておくほうが、手段の引き出しが増えたのではないかと。
- △話し合い活動中に話型の活用ができていないのか、見取りづらい。

(2) 指導講評 **〔講師：棚橋 乾 先生〕**

子どもたちは一生懸命取り組んでいたが、学習内容の理解が不十分だった。「言葉」と「文字」の違い等細かいところはこだわらず、教室掲示を活かして学習をすすめられるとよい。子どもの発想をうまく引き出し、価値づけながらすすめていく授業形態を学年全体ですすめたい。

付箋を使用して話し合うとKJ法になってしまう。発問に対する答えを明確に固めずに自由な発想を引き出し、失敗してもよいことを伝えアイデアをたくさん出させたい。今回の学習では、ピラミッドチャートの活用は難しい児童も多かったため、付箋をグループ分けしてまとめる方法でもよかった。

めあてを精選し、全員が達成できるめあてを提示すべきである。低学年の学習は習慣化することが大切なので、毎時間めあてが達成できたか振り返る時間を確保できるように授業を組み立てるとよい。

(3) 成果と課題

〈成果〉

- ・今までの学習を思い出せるように教室に写真等を掲示したことから、色々な伝える方法があることに気付き活発な話し合い活動につながった。
- ・話型提示をしてから話し合いを行ったことで、よく聞きよく考える児童の姿が見られた。

〈課題〉

- ・似たような意見が多く出たことから細かい違いを確認したところ、混乱が起こってしまった。細かい違いは後からにして、多くの考えを出させる指導をしていく。

～2年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見付け、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～E S Dの視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 好奇心が旺盛で、明るく素直な児童が多い。
- 自己肯定感が高く、取り組んだことやできたことを評価し、認め合うことができる。
- ▲ 自身が取り組んだことに満足してしまうため、さらに広げたり深めたりすることにつながりにくい。
- ▲ 相手意識をもって聞いたり話したりする力が十分ではない。

2 目指す児童像

身近な自然や人に興味をもち、自分で興味を広げていこうとする児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

- **指導計画の工夫**
 - ・「計画・探検・まとめ・共有」のスパイラル
- **ポートフォリオの活用**
 - ・学習を記録し、学んできたことを振り返るとともに、今後の見通しをもつ
- **シンキングツールの活用**
 - ・クラゲチャート
 - ・Yチャート

【共感・協働】

- **地域・保護者との連携**
 - ・世田谷区みどり33推進担当部公園緑地課
 - ・地域のお年寄り
 - ・保護者
- **授業形態の工夫**
 - ・全体、グループ学習
- **ICTの活用**
 - ・写真、動画の共有
 - ・ロイロノートでのアンケート機能

第2学年 生活科学学習指導案

令和5年7月12日（水）5校時

2年2組32名

1 単元名 こうえんたんけん 大はっけん！

2 単元について

(1) 単元の捉え方

本単元は、地域と関わる活動を通して、地域に親しみをもったり、他者と進んで交流したりすることができるようにすることをめあてとしている。また、低学年の段階で自分自身を取り巻く環境に関心を持ち、意欲的に関わることで、環境に対する豊かな感受性を育てたいと考える。

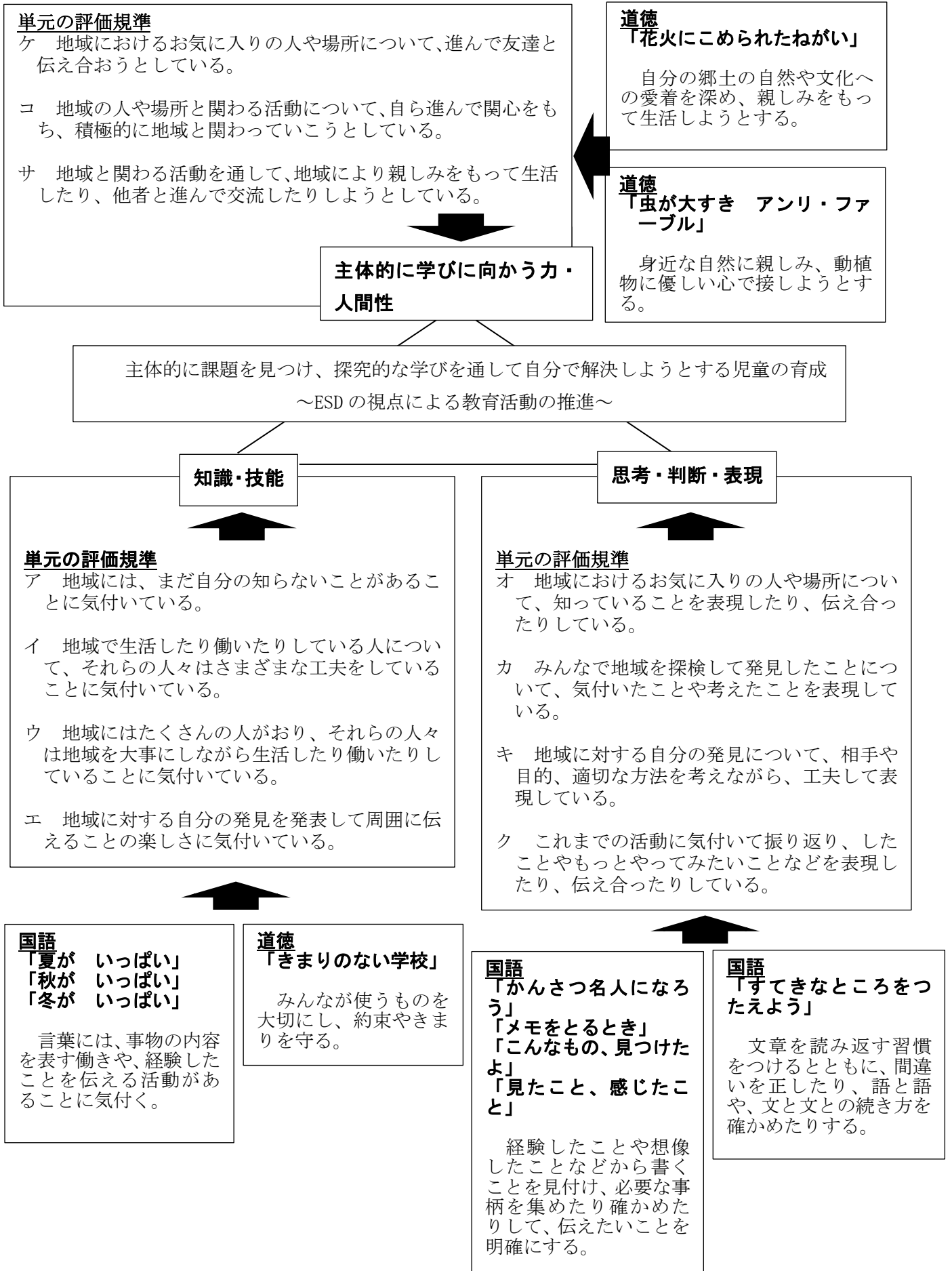
本校のある学区域は住宅街でありながらも豊かな自然に恵まれている。近隣には、多摩川河川敷の公園を始め、児童が日常的に利用している公園も複数ある。その中でも、玉川野毛町公園は豊かな自然とともに様々な施設も充実しており、今後は更なる敷地の拡張も予定されている。現在も児童だけではなく、様々な年代の方が様々な目的で利用されている上、拡張予定のエリアはその活用方法などについて地域住民の意見を取り入れ計画されている。近隣に住む児童たちが野毛町公園に興味関心を持ち、親しみをもつ中で、地域の方々の願いに触れ、自分たちのまちのよさに気付くようにさせたい。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

視点を変えながら幾度も公園を探検し、探究のプロセス（課題把握・課題解決・協働・振り返り）を繰り返すことによって、身近な自然や人に興味を持ち、児童自らが主体的に興味関心を広げていくことができるのではないかと。そして、考えたことを整理するためにシンキングツール（クラゲチャート、Yチャート）を活用したり、学んできたことを振り返るとともに今後の見通しをもつためにポートフォリオを活用したりする。

それぞれが自分の興味関心を持ち課題を選択した上で、同じ課題を選んだ友達と協力しながら探検をすることでコミュニケーション力・課題解決力の向上が期待できる。また、他の課題を選んだ友達と気付きを紹介し合うことで、多様な考え方や捉え方を知り、互いのよさを認め合い尊重し合うことにもつながると考える。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	・公園探検をして分かったことや考えたことを発表するために、主体的に話し合いに参加したり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
多様性の尊重	・公園を利用する人や地域で働く人の立場に立ち、他者の考えや立場に共感することができる。

3 児童の実態

本学級の児童は明るく、元気な児童が多い。自己肯定感が高く、取り組んだことやできたことを評価し、認め合うことができる。しかし、自身が取り組んだことに満足してしまうため、さらに広げたり深めたりすることにつながらないことがある。本単元を通して、新たな発見を増やし、進んで調べたり考えたりしようとする意識をもたせていきたい。

4 単元の目標

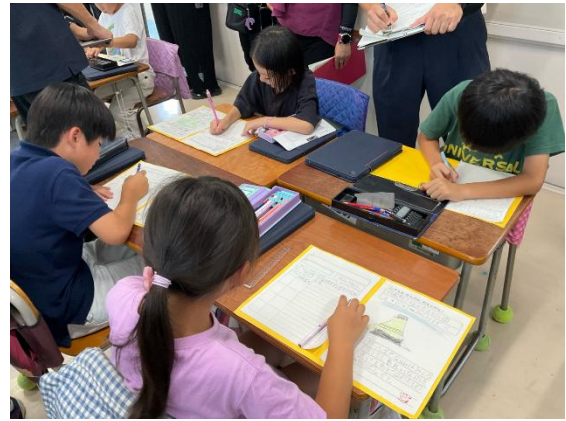
地域と関わる活動を通して地域の自然や人、場所の存在について深く考え、公共施設を支えている人がいることに気付くとともに、そうした他者と関わることのよさに気付くことができるようにする。また、地域に親しみをもって生活したり、公共施設を正しく利用したりして他者と進んで交流することができるようにする。

5 単元の指導計画 40時間

	ねらい	課題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
みんなであんけん、みんなではっけん(7)	自分たちが住む地域にある野毛町公園を探検し、気付きを伝え合うことで、公園についてもっと知りたい、関わりたいという思いを高める。	つかむ① 調べる② まとめる② 伝える②	○自分たちが住む地域にある公園における、お気に入りの物や場所を出し合い、探検への思いをもつ。 ○安全に気を付けて野毛町公園の探検をし、「すてき」などところを見付ける。【第1回公園探検】 ○野毛町公園で発見したこと、気付いたことをカードにまとめる。 ○探検をして気付いたことやもっとやってみたいことなどを伝え合う。	国語「かんさつ名人になろう」 道徳「きまりのない学校」	ア	オ カ	コ ケ	観察 発言 付箋 ワークシート

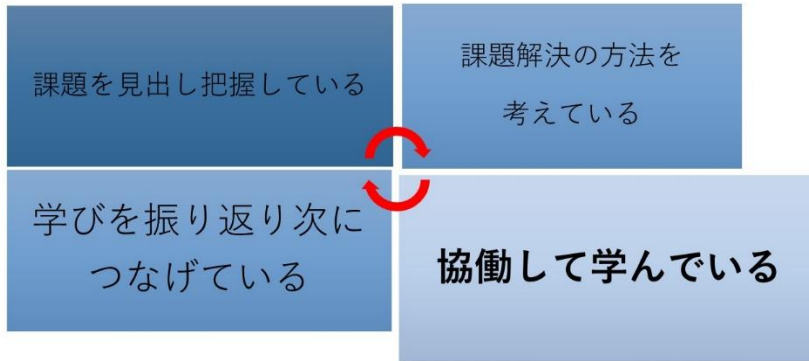
もっとたんけん、もっとはっけん①（18）	これまでの活動の経験を活かしながら、野毛町公園の豊かな自然や人、施設の存在についてより深く考え、地域のよさに気付き、地域に親しみをもつことができるようにする。	つかむ① 調べる② まとめる② 伝える①（本時）	マル野毛町公園の「自然」や「人」に着目し、探検計画を立てる。 ○安全に気を付けて野毛町公園へ行き、各自の興味に合わせたグループ（花・木・生き物）に分かれて探検をする。【第2回公園探検】 ○探検をして気付いたことをカードや付箋に書く。 ○探検して気付いたことを他のグループの人と伝え合う。	国語「メモをとるとき」「こんなもの、見つけたよ」	オ ア	コ ケ	観察 発言 付箋 ワークシート 付箋
		つかむ① 調べる② まとめる② 伝える①	○これまでの探検を振り返り、公園の生き物について知っていることなどを出し合う。 ○生き物探しにでかけ、GTの方と交流しながら、見付けたり、触れ合ったりする。【第3回公園探検】 ○生き物の住む環境に目を向け、どこにどんな生き物がいたかをまとめる。 ○クラス全体で共有する。	道徳「虫が大すきアンリ・ファール」	オ ア	コ ケ	観察 発言 ワークシート
		つかむ① 調べる② まとめる② 伝える①	○野毛町公園の拡張計画について知り、興味をもつ。 ○GTの方から「野毛町公園どんぐりプロジェクト」について話を聞き、自分たちにできることを考える。【第4回公園探検】 ○思ったことや気付いたことをまとめる。 ○クラス全体で共有する。	道徳「花火にこめられたねがい」	オ ア	コ ケ	観察 発言 ワークシート
	もっとたんけん、もっとはっけん②（7）		つかむ① 調べる③ まとめる② 伝える①	○野毛町公園の「施設」や「人」に着目し、探検計画を立てる。 ○安全に気を付けて探検に出かけ、人や場所と関わる。【第5回公園探検】 ○GTの方のお話を聞き、現在の野毛町公園や今後の拡張計画への思いなどについて考える。 ○思ったことや気付いたことをまとめる。 ○クラス全体で共有する。	国語「見たこと、感じたこと」	オ イ ウ ア	コ ケ

こうえんの「すてき」を伝えたい(8)	探検を振り返り、他者に伝えたいことを考え、発表することができる。	つかむ① まとめる⑤ 伝える① 伝える①	○野毛町公園の「すてき」などところについて知らせたいことを出し合う。 ○各グループで発表する内容を相談し、表現方法を選んでまとめる。 ○他学年の人や保護者に向けて、発表会を行う。 ○これまでの活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。	国語「すてきなどところをつたえよう」	エ	キ ク	オ サ	観察 発言 発表 ワーク シート
--------------------	----------------------------------	---	--	--------------------	---	----------------	----------------	------------------------------



7 本時の指導

【せたがや探究的な学びのプロセス】



(1) 本時の目標

公園で見つけた「すてきな自然」について発表し合い、これまで自分が知らなかったことがたくさんあることに気付く。

(2) 本時の展開（13/40時間）

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 これまでの学習と本時のめあてを確認する。	○前時に行った、公園で見つけた「すてきな自然」について、各自で振り返り、付箋を書いた活動を振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> こうえんの「すてきなしぜん」についてつたえあおう。 </div>	
2 発表の仕方を確認し、各グループで、公園で見つけた「すてきなしぜん」を発表し合う。 <u>発表の仕方</u> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで写真を見せる。 ・見付けたものを紹介する。 ・付箋を地図に貼る。 	○異なる「すてき」を見つけた人がいるグループを事前に編成しておく。 ※「すてき」…「虫」、「花」、「木」、「土」 ○発表の仕方を確認した上で、グループになり、発表を行う。 ◆お気に入りの人や場所、ものについてすすんで友達と伝え合おうとしている。 【ケ 主体的に学びに向かう力・人間性】（観察）
3 今回の活動について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入する。 ・全体で発表する。 	◆地域には、まだ自分の知らないことがあることに気付いている。 【ア 知識・技能】（ワークシート）

(3) 板書計画

こうえんたんけん大はっけん！

公園の「すてきなしぜん」をつたえあおう。

○はっぴょうのしかた

- ① タブレットでしゃしんを見せながら話す。
- ② ふせんをち図にはる。

地図

8参観の視点

- (1) 付箋やワークシートは児童が考えをもったり整理したりすることに有効だったか。
- (2) グループで話し合ったり交流したりすることで、児童の興味関心は広がっていたか。

(1) 研究協議

① 学年より

- ・とても明るく、素直な素朴な子が多い学年で、自己肯定感が高い。
- ・もっと上を行ってほしいけれども、満足感が高いため、もっと深く知ってほしい、課題をよくして欲しいというところに自分たちで気付くことが難しい。
- ・自分たちに身近な公園なので、行ったことある、知っているという子が多く、「何か知りたいことは？」と聞いても、もう知っているという子がいた。
- ・せたがや探究的な学びプロセス→繰り返し行うことを意識した。
- ・思考の世界が広がるように、シンキングツール（ウェビングマップ）などを取り入れている。
- ・地域や保護者との連携も行い、ゲストティーチャーにも来ていただき、子どもたちの興味を広げたいと考えている。
- ・iPad で写真を撮ることで、子どもが描く絵よりもみんなの関心が広がっていた。

② 授業者自評

- ・初めての研究授業で、自分も子どもたちもワクワクと緊張の授業だった。
- ・自己肯定感が高く、「ぼくはなんでも知っています。」という子もいたけれど、今日の授業で知らないことがあった、まだまだ知らないことがたくさんあるということに気付くことができてよかった。
- ・iPad で撮った写真を使って、友達に説明することができていた。
- ・もっと声掛けをした方がよかった部分もあったので次につなげていきたい。

③ グループ協議より

Aグループ

- ・付箋の使い方については、自分の考えをもって思考を整理することができていた。
- ・交流も具体的にできて、関心が広がっていた。
- ・振り返りの部分で、もっと具体的に書くことができるとよくなるのではないか。振り返りの視点を、もっと具体的に絞ってあげると、さらによくなるのではないか。
- ・付箋はどう色分けしているのか→赤…花／緑…虫／黄色が木／青は人やほかに見付けたこと

Bグループ

- ・付箋や地図は、場所を示しやすく、みんなで共有をするのに有効だった。
- ・写真や観察のポイントによって、質問がたくさん出て、全員ではなくても、多くの子どもたちの興味関心が広がっていたのではないか。

Cグループ

- ・ワークシートは子どもたちの発表の自信になっていた。
 - ・場所の整理ができていたことがよかった。
 - ・ほかの人が気付いたもののよさに気付くことは難しい
- 班の中で、認め合える活動があるとよいのではないか。(マークを書くなど)
- ・質問をたくさんすることで、興味関心が広がっていったのではないか。
 - ・グループに差があるので、グループ分けはどうしたらよいのか。
 - ・今回のグループ分けはどのようにやったのか
- 1つのグループに様々な種類を調べた子が入るようにグループ分けを行った。調べた内容に偏りがあったため、グループにも偏りが出てしまった。

Dグループ

- ・色分けがよかった。付箋に書く内容を明確にしておくといよいのではないか。
 - ・受け身な振り返りが多かったので、振り返りの欄をもう少し大きくしてもよいのではないか。
 - ・せたがや探究的なまなびのプロセスの中の「協働して学んでいる」にしたのはなぜか
- 伝え合う活動であるが、次につなげることができるか…という部分があったから。
- 子供の意見によっては、次のプロセスでもよかったかもしれない。

Eグループ

- ・整理をするためには、とても有効だった。
- ・子供によっては、付箋と違うことを話したり、付箋をそのまま読んだりしていた。
- ・班での共有する時間が20分あったが、全体で共有する時間がもう少しあってもよかったのではないか。
- ・子供たちの興味関心を広げるためには、振り返りの視点をどのように活用するべきか。視点を明確にしないことも大事なのではないか。
- ・最後に拾った子どもの考えから、次につなげられることもできるのではないか。

(2) 指導・講評

〔講師；棚橋 乾 先生〕

- ・回数を重ねていくと、発表の仕方や写真の使い方がわかっていくので、より考えが深まっていく。
- ・最終的に生活科は、自分自身のことと身の回りのことを考えていく。
- ・2年生でも探究学習をしていくことが大切
- ・2年生だと、次にすすむときに教員のフォローが必要になってくる。
- ・調べるような雰囲気を味わわせて、成就感を感じさせることが大切。
- ・気付きを深める→探究学習の入り口を2年生でも経験
- ・自分の考えで行動させる→主体的な活動の体験（総合的な学習の時間の入り口として、与えられた課題ではなく、自分で知りたい、調べたいと自ら学んでいくように）
- ・今回がゴールではないので、2学期3学期と3年生の総合的な学習の時間につながるようすすめていってほしい。
- ・授業に集中してついていけない子にも、最後発表の機会を与えていて、本人も満足だったので、次につながっていくのではないかな。

◎多摩市総合 ESD ポートフォリオについて

- ・教員がすべて把握しておくことは難しいので、自分で自分の活動履歴を書かせておく。
- ・達成してほしいこと、高めてもらいたい力を明記しておき、子どもたちが意識できるようにする工夫も必要。

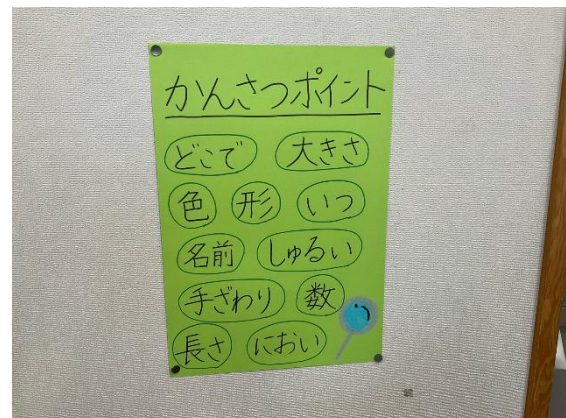
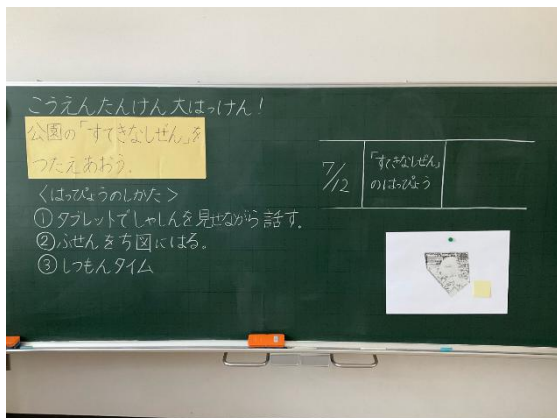
(3) 成果と課題

<成果>

- ・児童にとって身近な公園に着目することで、児童の興味関心を引き、進んで学習する意欲を引き出すきっかけとなった。
- ・ポートフォリオやタブレットなどの思考ツールを使って、思考の整理をする力が付いた。
- ・グループ活動を通して、他者の意見や考えに耳を傾ける力が付いた。

<課題>

- ・グループによって調べた内容の偏りがあったため、グループの偏りもできてしまった。
- ・グループ活動の時間が多かった分、全体での共有の時間が短くなってしまったため、次回へつなげる部分が欠けてしまった。
- ・振り返りの視点が多かったため、2年生に合った視点に絞る必要があった。



～ 3年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見付け、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～ E S D の視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 何にでも興味をもつことができる。
- 課題に対して取り組もうとする児童が多い。
- 友達に優しく接することができる。
- ▲一部、相手の気持ちを考えずに行動したり発言したりする児童がいる。
- ▲相手の気持ちを考えずに行動することがある。
- ▲見通しをもって学習する経験が少ない。
- ▲取捨選択能力が低い。
- ▲自分の考えを表現することが苦手。
- ▲間違いを恐れている。
- ▲文章力が低い。

2 目指す児童像

課題を見付け、学び方を知り深めようとする児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

- **指導計画の工夫**
 - ・計画、探検、まとめ、共有のスパイラル
- **ポートフォリオの活用**
 - ・学習を記録し、学んできたことを振り返るとともに、今後の見通しをもつ
- **シンキングツールの活用**
 - ・調べた内容を整理して、新たな課題につなげるためにシンキングツールを活用する。

【共感・協働】

- **地域・保護者との連携**
 - ・二子玉川公園
 - ・きぬたま遊び村
 - ・城南環境学習支援グループ
 - ・ビオトープギルド
- **授業形態の工夫**
 - ・調査内容ごとのグループ学習
 - ・全体、グループ学習
- **I C T の活用**
 - ・写真、動画の共有
 - ・共有ノートの活用

第3学年 総合的な学習の時間 学習活動案

令和5年11月29日(水) 5校時

3年2組 児童数 26名

1 単元名 多摩川の魅力を伝えよう

2 単元について

(1) 単元の捉え方

昔から、人間は自然の豊かな恩恵を受けて暮らしてきた。特に、四季の移り変わりのある日本では、人々の生活は木々や植物などの自然と密接な関係をもっていた。しかし、最近はこうした人間と自然との関係が少しずつ薄れてきている。その原因としては、開発に伴う自然の減少や環境破壊、物の氾濫などが考えられるが、児童に視点をあてると、自然体験不足が大きな原因として挙げられる。自然の中で、自然を生かして遊んだり生活したりする機会が少なくなり、児童の意識や興味・関心がまわりの自然に向けられにくくなっている。このことは、本校の児童についても例外ではない。玉堤小学校は、豊かな自然環境の中にある。学区には、自然の宝庫である多摩川が流れているが、安全確保のため子どもだけの川遊びは難しく、その自然の素晴らしさを体感できずに生活している児童が多い。

この豊かな自然の宝庫を後生に絶えず残していくために、身近な自然環境に携わっている人のお話を聞いたり、ふれあう活動を通したりして、改めて自然の大切さや自然がなくなるのではないかという問題意識を感じさせなければならない。

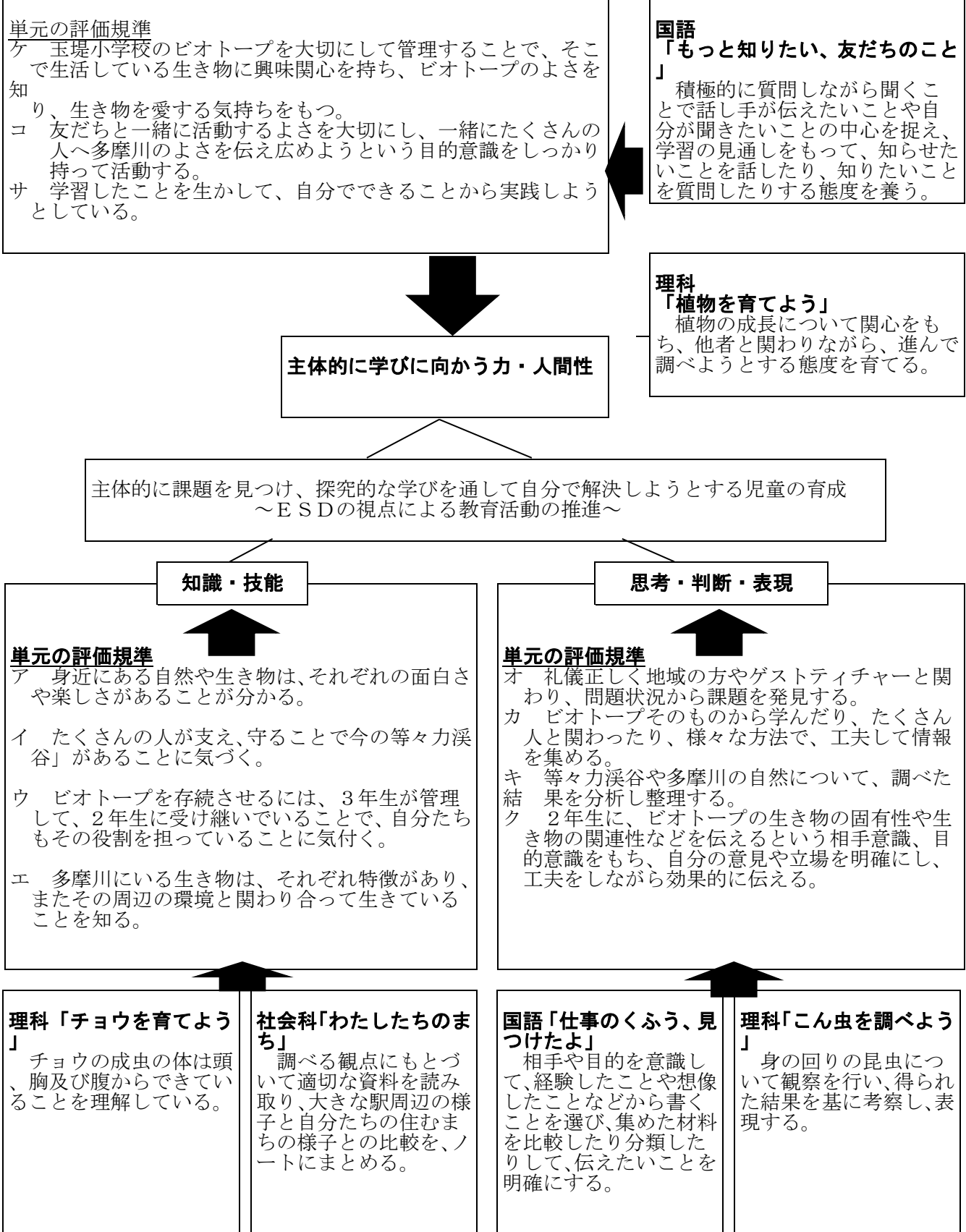
本単元では、地域の自然を学びの場として学習を進めていく。「多摩川の魅力を伝えよう」という共通課題のもと、児童があまり意識していない身近な自然について、特に植物や虫や魚に焦点を当て、見学や体験活動を行うことで、生物が食べ物、水を通して周囲の環境と深く関わり合っていることについて理解するとともに、身近な環境における生態系のバランスを保ち続けるために自分たちにできることを考え、表現することで、自然環境を守っていこうとする態度を育てていきたいと考え設定した。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

幾度も二子玉川公園、多摩川、等々力溪谷、ビオトープなどの活動を通し、探究のプロセス（課題把握・課題解決・協働・振り返り）を繰り返すことによって、身近な自然に興味をもち、児童自らが主体的に興味関心を広げていくことができるのではないか。そして、考えたことから視点を広げるために、シンキングツール（太陽チャート）を活用したり、学んできたことを振り返る活動をしたりすることで、今度の見通しをもてるようする。

それぞれが自分の興味関心をもった生き物を調べて図鑑にまとめることで課題解決力の向上が期待でき、他の課題を選んだ友達と気づきを紹介しあうことで多様な考え方やとらえ方を知ることができる。また、他学年に伝えていくことで、コミュニケーション力の向上にもつながると考える。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	自然探検をして分かったことや考えたことを発表するために、主体的に自分の課題にした生き物を調べたり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
多様性の尊重	これからの自然環境を守っていくために、自分たちでできることを考え、実践しようとするすることができる。

3 児童の実態

1・2年生の生活科において、植物を育てたり動物と触れ合ったりする経験をしてきた。2年生では多摩川の川辺で昆虫採取を行った。そのため、多摩川には動植物がいることや多摩川に親しみがあるといえる。また、「おもちゃけんきゅうじょ」では、おもちゃ作りを通して本やインターネットを活用して調べたり、XYチャート・ピラミッドチャートを活用して自分の考えを整理することができた。

3年生になり、総合的な学習の時間が始まったが、年間を通じて動植物に触れ合う機会が増えた。特に、二子玉川公園に2回訪れて、春と秋の虫や植物を捕まえたり、観察したりした。葉の色や花、虫の大きさが違うことを施設の方に見せてもらうことができた。

校庭にビオトープの管理をビオトープギルドの先生から学んだ。ビオトープの構造やその特徴によって住む動植物が違うことや、メダカの体の特徴について学んだり、ビオトープに住む虫を観察したりすることができた。

子どもたち同士で活動することは好んでいる。虫や植物を好む子も多い。係活動で虫を捕まえたり、虫のクイズを発表したり活動している。しかし、自分が考えたことを書く力や発表する力については、個人差が多いと感じている。普段の授業で手を挙げて発表をする子どもが限られているので、それぞれの子どもが自分の考えをもてるようにしたい。

4 単元の目標

多摩川にいる生き物について調べることにより、生き物に対する愛着や思いをもつと共に生命の尊さに気付き、分かったことを太陽チャートや図鑑に表して伝えようとする。

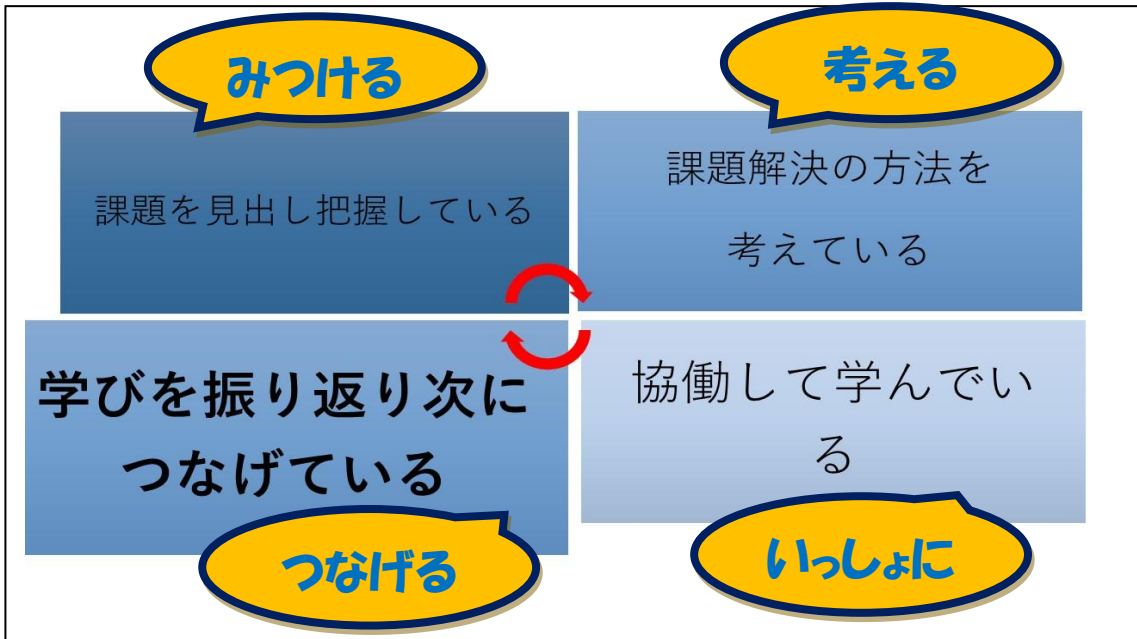
5単元の指導計画 49時間

	ねらい	問題解決の流れ ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価				
					知	思	主	方法	
ビオトープの自然にふれよう (16時間)	ビオトープの取組を通し、生き物の変化を分ることを伝える。	つかむ② 調べる⑥ まとめる⑥ 発表する②	学校のビオトープで自然を守ろうとしている人との活動をもっと広めよう ○G Tの方から、生き物が住みやすいビオトープについて話を聞き、生き物に興味を持つ。 ○ビオトープで生き物を観察する活動を通して、自然の豊かさや生き物の面白さ、ビオトープのよさを感じ、自分たちができることを考える。 ○「ビオトープにたくさんの人が訪れ、自然を感じてほしい」という願いをもち、広める方法を考える。 ○ビオトープ発表会をなぜ行うかという目的意識と、誰に対して行うかという相手意識をもって計画して 準備を行う。 ○発表会を開いてビオトープの活動をもっと広める。 ・発表する時は、相手意識をもち、楽しんでもらえるような発表の工夫をする。	理科「こん虫を調べよう」「植物を育てよう」 国語「もったいこと」「友だちのこと」	ア	ウ	カ	ケ	サ
等々力溪谷の自然環境を知ろう (8時間)	等々力溪谷の自然環境を知ろう (8時間)	つかむ② 調べる② まとめる②	等々力溪谷を見学して、生き物がすみやすい環境を調べよう。 ○G Tの方から、等々力溪谷ができ方と生態系について話を聞き、等々力溪谷と生き物に興味を持つ。 ○G Tと等々力溪谷の自然を調査に行き、等々力溪谷の環境に興味を持つ。(虫や生き物・鳥・植物・わき水・地層・古墳) ・虫や生き物の種類を調査する。 ・野鳥の生態を調査する。 ・植物の生態を調査する。 ・わき水を調査する。 ・地層の役割を調査する。 ・古墳の一を調査する。 ・自然の豊かさや生き物の面白さ、等々力溪谷のよさを感じる。 ○季節ごとに、等々力溪谷に行き、生態系の変化を調査する。 ○調査結果から分かること・考えられることについて話し合う。 ・生態系を維持していくためには、等々力溪谷の自然環境が関係している。	理科「チヨウを育てよう」「こん虫を調べよう」「植物を育てよう」 社会科「わたしたちのまち」 国語「もったいこと」「友だちのこと」	ア	イ	オ		ワークシート 発言
多摩川の魅力を伝えよう (25時間)	多摩川のよさを活動を通して、生き物が互いに環境をわたり合っていることを知る。	つかむ① 調べる② 調べる②	みんなが住んでいる地域の自慢を見つけ、考えよう。 ○地域にある自慢を見つけ、地域のよさを再確認する ・北側には幹線道路(環状八号線)が通り、地域は住宅地が多いという便利な面と、等々力溪谷や多摩川など自然が多いという面の両方を持つ地域であることを知る。 ・住宅地が密集している事実と、残っている豊かな自然を大切にしたい気持ちを持つ。 ○多摩川探検隊になって、多摩川の現状を調べる。 ・矢沢川が多摩川に合流する辺りに小魚集まっていることを知る。 ・多摩川に植物が生育していることを知る。 ○多摩川探検隊となって、G Tと多摩川の自然	理科「チヨウを育てよう」「こん虫を調べよう」「植物を育てよう」 社会科「わたしたちのまち」	ア	オ		発言・ワークシート	

		<p>を調査に行く。(魚・虫・植物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の魚の種類を調査する。 ・植物の生態を調査する。 ・多摩川の調査を通して、自然の豊かさや生き物の面白さ、多摩川のよさを感じる。 				
	調べる④ (本時)	<p>○G Tから聞いたことや図鑑を使って、多摩川の形態・生態の特徴について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川には、多様な生き物が住んでいる。 ・生き物の多様性を支える植生がある。 ・川の豊かな自然環境 ・友達の発表から気付いたことを自分の図鑑に生かそう。 				発言・ワークシート
	まとめる①	<p>○等々力溪谷の自然観察を通して、等々力溪谷と多摩川の自然を比較し、多摩川の自然について改めて見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物が少ない。 ・水がぬるい。 ・気温が一定ではない。 ・日かげが少ない。 	国語「仕事のくふう、見つけたよ」	キ	コ	
	まとめる②	<p>○調査結果から分かること・考えられることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢沢川が合流するところに魚が集まっているのは、矢沢川が関係しているのではないか。 ・植物があまり群生していないのは、生育条件が悪いのではないか。 ・生き物の種類や多摩川の様子から、水の美しさや森林・川・海の関係を知る。 		エ	サ	発言・ワークシート
	まとめる②	<p>○多摩川の自然を維持するために、自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚が住みやすい環境にする。 ・鳥が飛来したくなるような多摩川にする。 ・四季折々の植物が見られるようにする。 ・人間が捨てたゴミを増やさないようにする。 ・多摩川に生き物を絶やさないために、環境を調べ、活動を通して、多摩川の生き物に愛着をもつ。 				発言・ワークシート
	まとめる⑤	<p>○魚・植物・虫を調査してわかったことを持ち寄り、多摩川ガイドマップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川岸に植物が生えているところに魚が集まっている。 ・水門にいつも鳥が餌を探して止まっている。 ・植物の中には危険なものもある。 				作品
	発表する⑥	<p>○多摩川を、他学年によさを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季により、どんな魚がどこで見られるか伝える。 ・多摩川が増水した時には、近づかないように伝える。 ・季節ごとの生き物の様子を伝える。 ・多摩川を守ることは、海を守ることにつながることを伝える。 			ク	発表

7本時の指導

【せたがや探究的なプロセス】



(1) 本時の目標

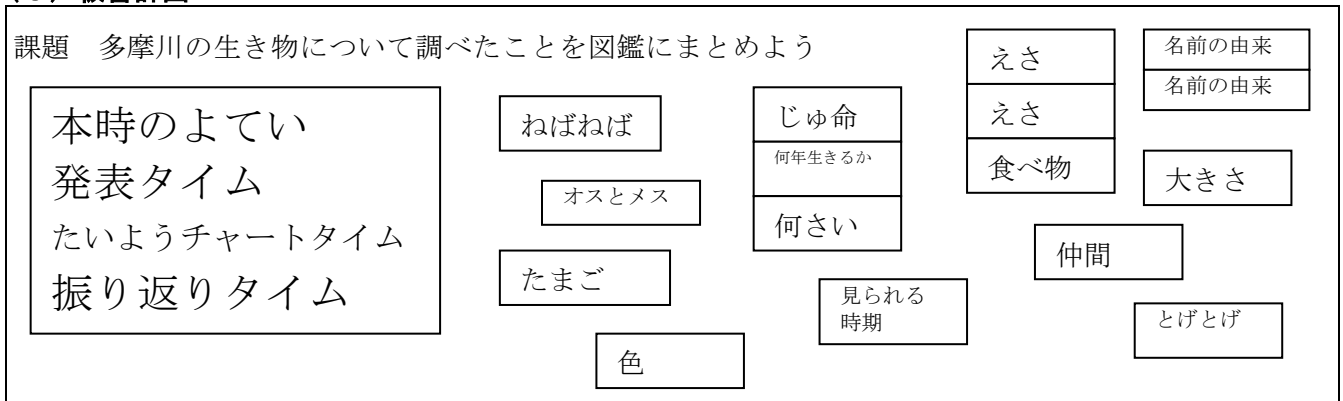
- ・視点の良さに気付き、自分の図鑑に生かそうとする。

(2) 本時の展開 (32 / 49時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 今までの活動内容を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 友達の発表を通して、気付いたことを自分の図鑑に生かそう。 </div>	
2 前時までに仕上げた自分の図鑑を友達に発表する。	○多摩川の生き物についてグループごと(魚グループ、虫グループ、植物グループ)のグループで集まって話し合う。
3 自分の発表や友達の発表を聞いて、新しく加えようと考えたキーワードを短冊に書く。	○友達の発表を聞いて参考になったキーワードや次に調べてみたいキーワードを短冊に書く。
4 掲示されたキーワードから共通点やよさを発表させる。	○黒板に掲示された短冊を見て、似ているキーワードを仲間分けする。魚グループ・虫グループ・植物グループが分かるように色分けして書かせる。様々なキーワードを黒板に掲示し、いろいろなキーワードや違うグループでも似ているキーワードがあることに気付かせていく。
5 発表を参考にして、自分の太陽チャートに活かして書く。	○掲示されたキーワードを参考にして、次に調べる動植物の太陽チャートの項目に書き入れる。事前に調べようと考えた3つは前時に書き入れてあるが、3つは空けてあるので、空いている3つに書き入れるよう指示する。
6 今回の活動の振り返りを書く。	◆良さに気付き、自分の図鑑に生かそうとしているか。 【カ 思考・判断・表現】(図鑑ワークシート) ○今回の活動を振り返り、まとめてみて気付いたことや分かったことを発表させる。

(3) 板書計画

課題 多摩川の生き物について調べたことを図鑑にまとめよう



8 参観の視点

- (1) 調べるキーワードを広げるために思考ツールを活用したことは、改善策を考えることに有効であったか。
- (2) 学習の流れは主体的に協働的に取り組み、思考に沿ったものであったか。

(1) 研究協議

① 学年より

- ・児童の実態は、興味をもつ子どもたちであるが、見通しをもって行うことや情報を整理し取捨選択が難しい。発表、自分の考えを相手に伝える力が低い。
- ・児童像は、自然に目が向いていない。
- ・3年の総合的な学習の時間では、玉川に視点を置き、3つの視点を考えた。自然環境に携わっている人に話を聞く。
- ・今日の授業では、広がり小さいので太陽チャートを活用して視点を増やした。
- ・理科的な視点の視点多かったため、同じ視点で調べた人と交流し、友達の意見をもとに考えを広げていく。
- ・最終的には、自分で作った図鑑を閉じて学校に残す。

② 授業者自評

- ・総合の学習がはじめて。先生が言われた通りだったものを、自分で何を書いたらいいかを問われた学習。
- ・児童の元気さ、賢さを生かしきれなかった。
- ・児童は、虫が大好き。自然に対する意識は非常に高い。
- ・発表時間が長かった。短くすることで、自分の太陽チャートを書き換えるところまで行くことができなかった。
- ・キーワード・・・同じグループでかぶっていることが多く、そこから広げるために行った。
- ・今日の授業で、いろいろな情報が載っていると面白いのではないかという考えを児童が理解できた。

③ グループ協議より

- とても主体的、意欲的に取り組んでいた。
- 流れとしては、子ども達の動機につながっていた。
- 太陽チャートを使うと目標が明確なので、やる気になる。
- 太陽チャートを埋めようとするというのは、効果的に使えた。
- キーワードを広げる、黒板で短冊を操作にすることにつながっていた。
- 子ども達の様子から、発表の仕方がよかった。
- ▲もっと友達に任せてもよかった。
- ▲チャートをもっとお伝えするとよかったのではないかと思う。
- ▲発表の後に書き込む時間があれば、もっと広がったのではないか
- ▲生活の視点だけではなく、数値的、地域的、語源的など視点を増やして行くために、太陽チャートに増やしてもいいのではないか。
- ▲短冊をまとめるのは、子ども達に行ってもらってもよかったのではないか。
- ▲新しい視点を貼ろう、との声掛けがあればもっとひろがるのではないか。

(2) 指導・講評

〔 講師；棚橋 乾 先生 〕

- ・近場の自然を生かした学習というのは大切でよかった。
- ・授業を見ていて、話し合いや発言は良かった。
- ・全体を通して、先生が話していた時間が長い。
- ・短冊をまとめるというところをゴールとして、そこに至る経験を積むことができるのではないかな。
- ・経験（引き出し）を増やすと見通しにもつながる。
- ・総合的に学習の時間は、先生の話の短くして、子ども達に考えさせる時間を長くする。
- ・図鑑のつくり方は見通しが立っている。図鑑のゴールイメージをつくる時間を作ってもいいのではないかな。
- ・校外学習の中で、自分の見た動植物を書くので、子ども達自身の実感のある図鑑をつくってほしい。
- ・3年生のゴールは明確だと思うが、学校全体のゴールイメージについて考える必要がある。
- ・ESDの目標をしっかりと据えてやっていく必要があるのではないかな。
- ・3年生は、自分たちで興味をもつことを調べていくことを楽しむという経験を積ませることができたのではないかな。

(3) 成果と課題

<成果>

- ・多摩川という近場の自然を生かした学習ができ、いつも見ている多摩川から子ども一人ひとりの興味関心のあるものを選択し、調べたり活用したりしてまとめることができた。課題に対して追求する力や表現する力が高まった。
- ・太陽チャートを活用して、物事を多角的にとらえて図鑑に表すことができた。
- ・他教科での積み重ねてきた「話し合いの力」が高まっているといえる。

<課題>

- ・大事な情報を取捨選択したり、要約したりするスキルが低い。
- ・熱しやすく冷めやすいので、実践を継続させるのが難しかった。
- ・発表する機会があり、子どもたちの発表する力や表現する力が高まったので、今後も続けていくことが大切だと感じている。

～4年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見つけ、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～E S Dの視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 自己の課題を把握することができる。
- 何事も意欲的に取り組むことができる。
- 話し合い、合意形成をすることができる。
- ▲自己の課題を解決するための方法を考えるのが難しい。
- ▲自分の考えを伝えるのに抵抗がある児童がいる。
- ▲学習したことを生活に結び付けることが難しい。

2 目指す児童像

自ら課題を見付け、学び方を知り深めようとする児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

○指導計画の工夫

- ・他教科と同様の学習の流れに沿うことで、見通しを持って探究活動を行うことができる。

○ポートフォリオの活用

- ・学習内容の振り返り、次に学びたいことを計画することで、児童が課題を段階的に解決することができる。

○シンキングツールの活用

- ・アイデアを効率的に整理して課題を見付けたり、調べたことを分かりやすくまとめたりすることができる。

【共感・協働】

○生活を支えてくれている人との連携

- ・用務主事
- ・調理員
- ・保護者

○授業形態の工夫

- ・取り組む内容ごとのグループ学習
- ・児童同士の合意形成で進める学習

○ICTの活用

- ・調査内容の共有
- ・情報の整理、分析の共有
- ・発表、まとめでの活用

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年1月24日（水）5校時

4年1組32名

1 単元名 ごみごみダイエット大作戦

2 単元について

(1) 単元の捉え方

本単元では、学校や家庭の生活の中でごみが発生する場面を想起したり、日本の社会の中でごみが発生する場面を知ったりすることから、ごみを減らすために自分に何ができるかを考え実践することで身の回りのごみを減らすアクションを知り、行動に移すことを目標としている。

日本では埋め立て地を利用したごみ処分を長年にわたり行ってきているが、今のペースで埋め立てを行っているとも20年前後で埋め立て地の限界が来ることが示唆されている。また、先進国と比べてリサイクル率が低いこと、日本の食品ロスは1年で約612万t、国民一人一日あたり茶碗1杯分の食料を捨てていることになる。子どもたちは、社会「ごみの処理と利用」の学習でごみの処理と減量やリサイクルの現状について簡単に学習している。本単元を通して、日本のごみ問題の現状を自分事として捉え、自分たちにできることを考える活動を通して、日常の諸問題を解決する方法を考え実践につなげようとする態度を養いたい。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

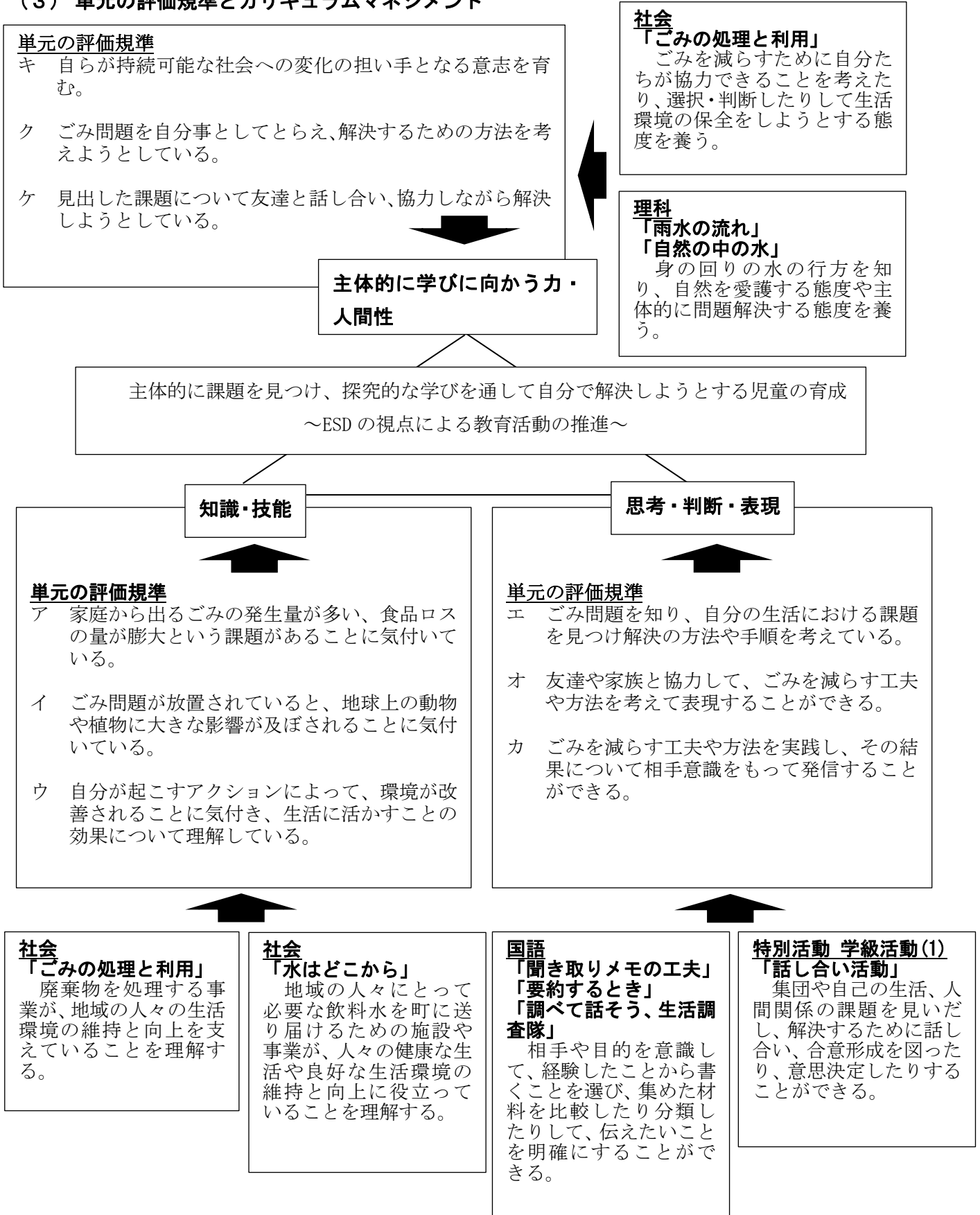
ESDは、環境の課題を自分事、我々事、として捉え、多くの主体と連携しながら解決へのプロセスを共に歩むことが大切である。

2学期の総合的な学習の時間で「パラリンピック種目をつくろう」に取り組んだ。様々なゲストティチャーから「障害者に障害があるのではなく、障害者が生活する上での困難や壁が障害となっている。」ということを知り、障害への理解を深めた。障害をもつ人も暮らしやすくするために障害者の気持ちを理解することを課題として、障害者が安心して楽しめるパラスポーツを考え、実践する活動を繰り返し、障害をもつ人と共に過ごすために自分ができることについて考えを深めることができた。

本単元では、まず、自宅に出るごみの多さを知り、自宅にあるごみ問題を振り返ることが、自ら問いをもち、課題を設定することにつながると考える。課題を解決するための方法を考える際は、友達と意見を出し合い、課題を共有することで様々な課題があることに気付かせ、課題を整理して解決方法を考えさせたい。

身の回りの課題を自分事としてとらえ、自分にできることを考えて実践につなげることができる児童を育てていきたい。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	・ごみを減らすために考えたアクションを共有し、より効果的な活動を見出せるように、主体的に話し合いに参加したり、友達と協力して考えたごみを減らすためのアクションを進めようとしたりすることができる。
創造性・新たな価値を創造する力	・ごみの現状を知り、課題を解決するための方法を考える際に、目的を明確にしながらい存の解決方法にとらわれず、自分たちにできることを考えることができるようにする。

3 児童の実態

本学級の児童は、学びに主体的に取り組むことができる児童が多く、見通しをもって学習を進めることができるようになってきている。1学期は障害者の困り感について考え、どんな人が何に困っているのか調べ、それを解決するための秘密道具を考えて発表した。2学期は白杖・車いす体験やパラスポーツのゲストティーチャーを招いた体験・講演を通して「障害者にとって、環境や差別的な考え方が障害となっている。」ということに気付いた。誰もがともに楽しめるパラリンピック種目をグループごとに意見を出し合いながら考案し、創り出した種目を全員で体験したことから障害者の気持ちを理解し、さらに障害への理解を深め、自分にできることを考えた。

本単元の学習を通して、日常生活の様々な場面で、様々な課題があることに気づき、その解決のために自分ができることを考え、行動することによる変化を大切にしたい。

4 単元の目標

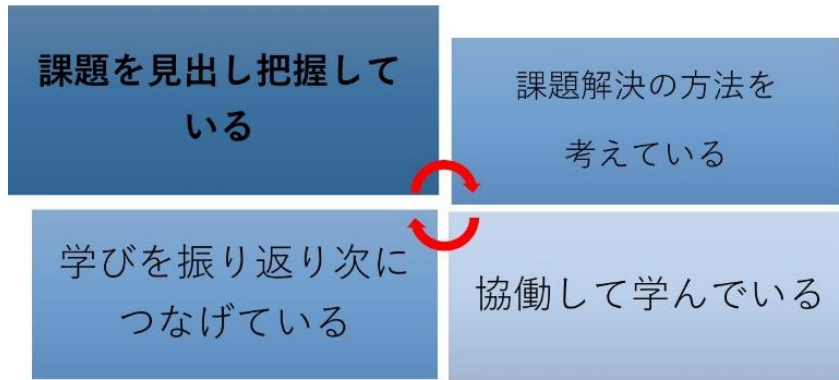
ごみに関する課題が数多くあることを知り、その課題を自分事として捉えて、ごみを減らす工夫や方法を考え、表現することができるようにする。

5単元の指導計画 16時間

ねらい	問題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価				
				知	思	主	方法	
日本のゴミ問題、家庭のゴミ問題から、それを削減することのメリットを知り、自分にできる取り組みについて考えることができるようにする。	つかむ① (本時)	○既習事項を想起し、ゴミ問題の歴史と現状の課題をおさえる。 ○3R意識、実践率の低さ、食品ロス問題と食料不足について知り、課題について話し合う。	社会 「ごみの処理と利用」「水はどこから」 理科 「雨水の流れ」「自然の中の水」	ア イ			観察 発言 ワークシート	
	調べる④	○家庭ごみの発生量について調べ、それを削減するためにできるアクションについて調べたり考えたりする。	社会 「ごみの処理と利用」	ア	エ	ク		
	まとめる⑨	○友達と意見を交流し、実際に学級で取り組むアクションについて話し合う。 ○いくつかのアクションについて実践し、結果をまとめる。 ○実践したアクションについて結果を分析し、取り組みを広げるために必要な課題や改善点を整理する。	国語 「聞き取りメモの工夫」 「調べて話そう、生活調査隊」 特別活動 学級活動(1) 「話し合い活動」 国語 「要約するとき」		オ	ケ		
	伝える②	○整理したことをどのように表現するか考える。 ○グループごとに考えた次なるアクションを発表、意見交流をし、学習の振り返りをする。		ウ		キ		
								カ

6本時の指導

【せたがや探究的な学びのプロセス】



(1) 本時

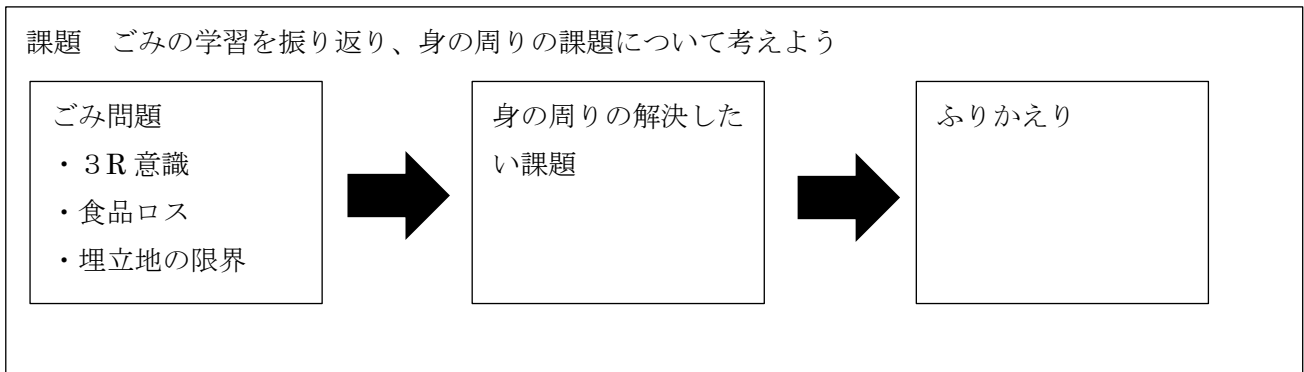
の目標

ごみ問題の課題について考え、解決したいことを見出せるようにする。

(2) 本時の展開 (1/16時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 社会科の学習の振り返りをする。	○東京都のごみ問題の歴史、分別されたごみの処理の流れについて振り返れるように資料を提示する。
ごみの学習を振り返り、課題について考えよう	
2 ごみ問題の現状について知る。	○ごみ問題を自分事として捉えることができるように、社会科で学習していない、より大きな課題を提示する。
3 自分の身の回りでの課題について考える。	○学校、家庭等、生活場面を想起して考えるツールを提示する。 ○一人一人が考えたことをグループで共有し、解決したい課題について話し合う時間を設ける。 ◆ごみ問題を自分事として捉え、課題となることに気付けるようにする。 【ア 知識・技能】(ワークシート、発言)
4 課題について交流する。	
5 振り返りをする。	○もっと知りたいこと、調べたいことを明らかにして、次時につなげられるようにする。

(3) 板書計画



7 参観の視点

- (1) 本単元の学習の手立てとして、導入で他教科の振り返りをするのは効果的だったか。
- (2) 解決したい課題を見出すために使用したツールは思考を整理するのに有効だったか。

(1) 研究協議

① 学年より

- ・ 3クラスそれぞれのカラーがあるが、どの子も意欲的。特に1組はいろいろなことに興味をもち、意欲が高い子が多い。普段からの学級経営から、児童の主体性が強い。
- ・ 昨年までは福祉のみの学習だったが、今年度から環境教育を社会科のごみの学習と関連させて取り組むことにした。事前の授業では、Xチャートを使ったり、ロイロノートのシンキングツールを使用させたりしてきた。

② 授業者自評

- ・ 社会の学習で課題について少し紹介している部分があった。
- ・ 紹介で止めておけば、振り返りの時間が取れていたのではないかということが課題。
- ・ チャートの使用を教師から提案したが、子どもの考えを聞く余裕があってもよかった。
- ・ 振り返りの書き方について意見があればお願いしたい。

③ グループ協議より

- 社会科との関連でカリキュラムマネジメントができていた。
- 学校と家庭、身近な場面で考えさせる工夫が良かった。
- 情報分析チャートは分かりやすく、児童が主体的に取り組むことに役立っていた。
- △意見を共有する時間をもっと長く取れるとよかった。
- △付箋の色の分け方を学校、家庭で分けると、今後の活動に活かせるのではないか。
- △個からグループに意見を整理するとき、個の意見も今後の学習に活かせる形にできたのではないか。

(2) 指導講評 **〔講師：棚橋 乾 先生〕**

・総合的な学習の時間における教師のスタンス

学習内容が盛り沢山で、余裕がなかった。2時間に分けて子供主体になるようにじっくり進めてもよかったのではないか。社会科の学習感が強かった。総合の学習で大事なのは、子どもの発想の流れ、方向性を示してあげること。失敗してもよい、なぜそうなったのかをみんなで話し合って考えることが大切。指導する側の「こういう風になってほしい。」という思いが強いほど、導くための準備をしすぎてしまう。教師が期待するような答えを準備させてしまうような授業だと、本来のねらい、学習とずれが生じてしまう。自分たちで主体的に考え、行動できるように「待つ」余裕が教師には必要。また、総合の学習（ESD）は、自分たちの生活に関するスタイルが変わるかがゴール。改善ができるアクションを考え実践できるかどうかを大事。

・ワークシートについて

学校・家庭と項目が分けられていたが、グループのワークシートは「やめる・減らす」になっていて、教師のもっていきたい流れができてしまっている。単元計画に余裕をもたせて2時間扱いにする等児童主体の活動にしたい。振り返りについては文章で課題を書かせるのは難しい子もいるので、単語で書かせることも有効。

・カリキュラムマネジメント

社会の授業の最後に、単元の学習における課題を子どもから出させる。しかし、社会の時間にその課題について考える場面がないことを伝え、総合の課題として考えていくという流れにするとスムーズに活動に入れたのではないか。

(3) 成果と課題

〈成果〉

- ・児童が主体的に学習していくためにどのような指導の工夫が必要か考えることができた。
- ・シンキングツールの使い方も児童に身に付き、必要感をもってツールを選択して学習することができるようになってきた。
- ・カリキュラムマネジメントを意識した単元計画を作成することができた。

〈課題〉

- ・課題設定の場面で子供主体の活動にすること。
- ・シンキングツールを使用する必要感を子どもたちに気付かせ、主体的に使い分けられるようにしたい。
- ・児童主体で学習活動を進める余裕をもった単元計画の作成。

～5年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見付け、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～E S Dの視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 友達と協力しながら活動に取り組むことができる児童が多い。
- 与えられた課題に対して積極的で、自分で考え行動することができる。
- ▲ 身に付けている知識・技能は多様だが、それを学習や生活につなげて生かすことが難しい。
- ▲ 自分の活動を振り返り、次の活動へとつなげることが難しい。
- ▲ 自ら身の回りの事象について課題を見出すことが難しい。

2 目指す児童像

身の回りから課題を見出し、自分にできることが何か考えられる児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

- **指導計画の工夫**
 - ・「計画・実施・まとめ・振り返り」のスパイラル
- **ポートフォリオの活用**
 - ・学習を記録し、学んできたことを振り返るとともに、今後の見通しをもつ
- **シンキングツールの活用**
 - ・クラゲチャート
 - ・座標軸

【共感・協働】

- **地域・保護者との連携**
 - ・近隣の公共施設（図書館、商店街、コンビニエンスストアなど）
 - ・地域の方
 - ・保護者
- **授業形態の工夫**
 - ・全体、グループ学習
- **ICTの活用**
 - ・写真、動画の共有
 - ・シンキングツールの活用
 - ・共有ノートを活用

第5学年 総合的な学習の時間 指導案

令和5年10月25日（水）5校時

5年1組32名

1 単元名 地球を救うわたしたち

2 単元について

(1) 単元の捉え方

本単元では、30年後、50年後の未来の地球を見据え、より豊かな地球環境を残すために「今、自分たちに何ができるのか」を考えさせることを目標としている。

このままの生活を我々が続けていると、地球温暖化は進行し、生物が絶滅していく。すると、同じような生活は送れなくなってしまうといわれている。本単元では、「Sustainable」という言葉を活動の中心に置き、実生活の中でどのようなアクションを行うのかを考えていく。初め、児童は大きな効果がありそうなアクションをしようとしていた。募金や動画を作って世界に呼び掛けるといったものは、大きな効果があるように感じるが、継続的に効果を上げ続けることは難しい。地球を救うためには、一度の大きな効果を狙うのではなく、小さな変化をこつこつと積み上げていくことが必要であることに気付かせたい。本単元を通して、自分たちの行動を客観的に見つめ直し、アクションを試行錯誤しながら考える活動を通して、主体的に地球環境に対してのアクションを行っていこうとする態度を養わせたい。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

解決したい地球の課題に向けて、探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返すことにより、地球の陥っている状況への興味を深め、主体的に問題解決に取り組むことができると考えている。

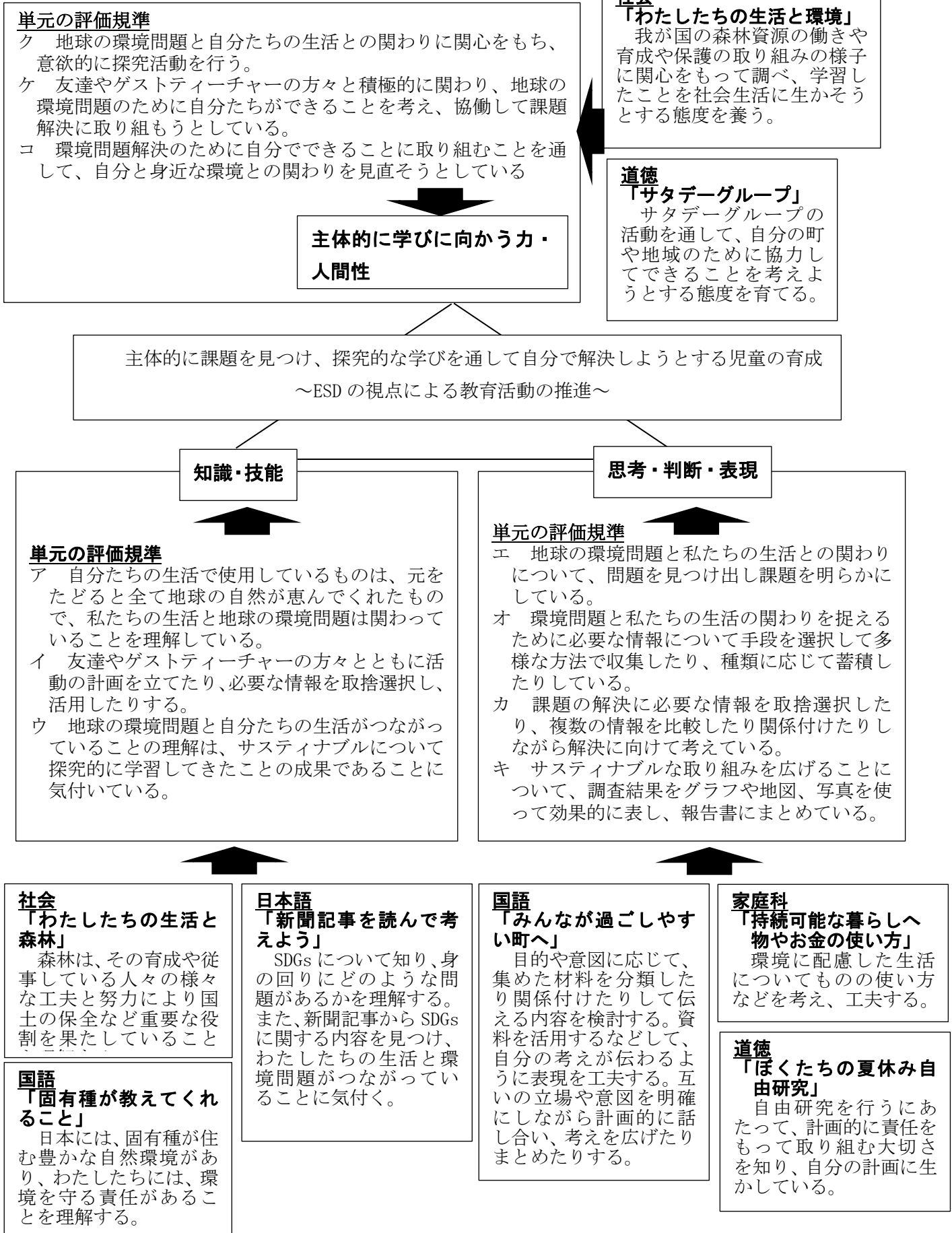
1学期には、映像（[地球のミライ] 温暖化は新フェーズへ NHK スペシャル「2030 未来への分岐点」 暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦、世界気象機関（WMO）：2050年の天気予報（NHK））をもとに地球の未来がどうなるのかを知り、SDGsについての理解を深めた。その後、身の回りの課題をもとにアクションを考え、夏休みの間にアクションを実行した。2学期は、自分たちが行ったアクションを振り返って分析し、グループごとにアクションを新たに考えている。そして、何度か探究のプロセスを繰り返しながら実生活の中でできるアクションを考えていく。3学期は、自分たちが行ったアクションの成果を整理し、総合発表会で発表を行う。

一度のアクションだけではなく、活動を振り返って反省点を見つけ出す活動を通して、情報を論理的、統合的・発展的にとらえていく力が身に付いていくのではないかと考えられる。アクションを振り返る際には、情報分析チャートや分布チャートを利用して情報を分析する。様々なチャートを活用することによって信頼性のある情報分析が行うことができることに気付かせたい。

地球の未来、延いては自分たちの未来を変えていくために活動することは、自己の生き方を考えることに繋がっていく。地球の課題について関心を持ちながら生活し、アクションを考えることを繰り返していくことで、よりサステナブルに地球環境を改善していく方法に気付いていく。

身の回りから課題を見出し、自分にできることが何か考えられる児童を育てていきたい。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
責任ある社会的行動力	・地球にまつわる課題をもとに自分にできる取り組みを考え、協力して行動に移すことができる。
問題解決能力	・行った取り組みを振り返り社会的に考え、継続的かつ効果的に取り組めるかどうか検討してよりよい方法を考えることができる。

3 児童の実態

本学級の児童は、友達と協力しながら何かを行うことに抵抗が少ない。夏休みの宿題では、1学期に考えたアクションを実践した。ポスターや募金、しおりといった「現状の周知」を呼びかけるものが多かった。2学期に入ってからの学習では、それぞれが行ったアクションを分析し、どのようなアクションが継続的で効果的なのかを分析していった。「現状の周知」だけではなく、それぞれが地球のために行動することの大切さに気付けた。

本単元の学習を通して、情報を分析しながら、より必要なアクションをそれぞれが行っていきたいという思いをもつことができるようにしたい。

4 単元の目標

地球環境の変化と今後について考え、地球の置かれている危機的状況を理解し、実生活の中でできる課題を立て、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。

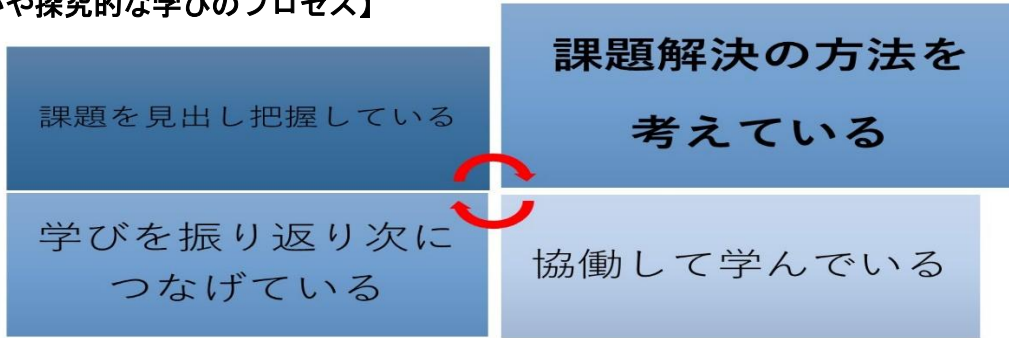
5 単元の指導計画 4 2 時間

	ねらい	課題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
地球のためにできること(13)	地球の現状を知り、地球のためにできることを考え、家庭でできる取り組みの計画を立てることができるようにする。	つかむ② 調べる⑦ まとめる④	○世界の課題について知り、地球の未来がよりよい方向に向かうために何ができるか話し合う。 ○地球の未来を変えるにはどのようなことをすればいいのか調べる。 ○フリーザチルドレンのアクティビティを通して、世界の状況を理解する。 ○世界の国々や企業がどのようなアクションを行っているかをまとめる。 ○家庭でできるアクションを計画する。	社会「わたしたちの生活と環境」 日本語「新聞記事を読んで考えよう」 道徳「サタデーグループ」「ぼくたちの夏休み自由研究」	ア イ イ		オ ケ エ カ	観察 発言 ワークシート

地球のためにこつこつと(17)	夏休みに実践した取り組みについて振り返り、アクションをさらに効果的にするためにどうするか考える。アクションの結果を確認し、総合発表会に向けて仮説を明確にできるようにする。	つかむ⑦ 調べる④(本時) まとめる④ 伝える②	○夏休みに取り組んだアクションの成果を発表し、興味関心を基にグループを作る。 ○夏休みのアクションについて振り返り、結果を分析する。 ○今後の取り組みについての方針を話し合い、身近な活動をこつこつ積み重ねることが大切だと方針決めをする。 ○グループごとに話し合い、調査研究の方法を再設定する。 ○仮説を設定し、仮説を検証するための計画を立てる。 ○アクションを実践し、結果を確認する。 ○アクションでの成果をまとめ、こつこつ取り組むとどのような成果が出るかを発表する資料を作成する。 ○グループ発表会を行う。	国語「みんなが過ごしやすい町へ」 「固有種が教えてくれること」	キ オ エ カ イ ウ キ	ケ ク コ	観察 発言 ワークシート
わたしたちができること(12)	調査研究の結果を整理し、調査の結果を発表することができるようにする。	つかむ① まとめる⑧ 伝える② 伝える①	○グループ発表会を振り返り、反省点を明確にする。 ○各グループで発表する内容を相談し、表現方法を選んでまとめる。 ○他学年の人や保護者に向けて、発表会を行う。 ○これまでの活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。	社会「わたしたちの生活と森林」 家庭科「持続可能な暮らしへ物やお金の使い方」	エ キ	ケ コ コ	観察 発言 発表 ワークシート

7本時の指導

【せたがや探究的な学びのプロセス】



(1) 本時の目標

方針に向けて、自分たちができるアクションを分析し、取り組むアクションを決める。

(2) 本時の展開 (2 1/4 2時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 前時で決めたアクションの方針について振り返る。	○前時で決めたアクションの方針を重要視する必要があることを再確認する。
自分たちができるアクションを分析し、取り組むアクションを決めよう。	
2 本時の流れを確認する。	○情報分析チャートの使い方を確認し、順序だててアクションを決定できるようにする。 ①できそうなアクションをたくさん出しあう。 ②①で出したアクションを分析する。 ③グループで取り組むアクションを決定する。
3 グループごとに情報分析チャートを活用して、グループで取り組むアクションを話し合う。	◆課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。【カ 思考・判断・表現】(発言、ワークシート)
4 本時を振り返る。	○アクションを決めるまでに、どのようなことを考え、次にどんなことをするか振り返ることができるようにする。

(3) 板書計画

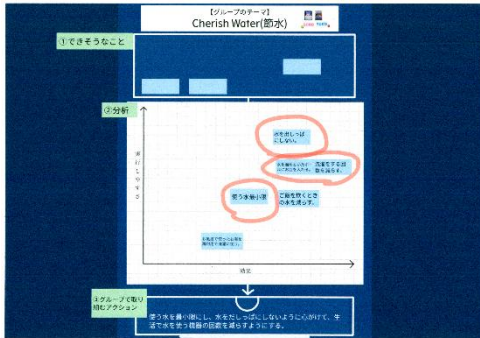
地球を救うわたしたち

自分たちができるアクションを分析し、取り組むアクションを決めよう。

- ①できそうなアクションをたくさん出しあう。
- ②①で出したアクションを分析する。
- ③グループで取り組むアクションを決定する。

8参観の視点

- (1) 情報分析チャート（分布チャート含む）は課題を自分事として捉え、アクションを分析するのに有効だったか。
- (2) グループで話し合ったり交流したりすることで、児童の興味関心は広がっていたか。



(1) 研究協議

① 学年より

- ・与えられた課題には積極的に取り組むことができるが、自ら周りの事象について課題を見出すことが難しい。
- ・探求のプロセスを意識した。①指導計画の工夫②ポートフォリオの活用③シンキングツールの活用
- ・共感、協働を意識した。①地域、保護者との連携②授業形態の工夫③ICTの活用

② 授業者自評

- ・1学期の段階では、募金やポスターといった身近ではないアクションを行っていた。しかし、2学期の分析を通して「Think global. Act locally.」の通り、大きな規模のことを考えながら、地域でできることに目を向けるように児童の気持ちに変容している。小さなことをこつこつと積み上げていくことが大切だということを今後も指導していく。
- ・探求的な学びを行うには、興味を持続させ続けることが必要だと感じた。そのためには、「発見」する場面を多く設定する必要がある。
- ・今後はアクションを分析し、総合発表会に向けて準備をしていくが、分析をする視点をどうするかが課題になってくる。

③ グループ協議より

- 共有ノートを児童が使いこなすことができている。
- 共有ノートを担当が見ながら、活動が活発でないところに声をかけることができている。
- 情報分析チャートは分かりやすく、児童が主体的に取り組むことに役立っていた。
- 児童が何をすべきか分かっているので、長時間の活動でも意欲が続いていた。
- △効果と実行しやすさという分析の軸は、児童には判断が難しいと感じた。
- △各グループの分析結果を聞く時間があると次の活動に活かせるのではないかと感じた。
- △グループによってアクションをするまでの時間に差が出そうだがどうするか気になった。
- △外来生物グループは今日の話し合いの中で、解体してしまった。実際に行動させてみて難しかった時に児童の判断で解体したほうがよかったのではないかと感じた。

(2) 指導講評 【講師：棚橋 乾 先生】

SDGs という言葉は非常に認知されている。その SDGs を教えるのが ESD である。授業としては探究的になっている授業だった。アクションまで実施させるのは難しいが、そこまで進むことができたのは昨年やこれまでの研究の積み上げがあったからだと感じた。

指導するときに「やってみないと分からない」というスタンスでいる必要がある。そうでなければ、児童がやってみたときに、うまくできなかったときにあきらめてしまう。こうしたスタンスがあって探究的な学びにつながっていく。児童が「できるかな？できるかな？」と考えてやってみて、「こんなに大変だったんだ！」「こんなことができた！」となるのが探究的な学びである。

地球環境は変化し続けている。アマゾン川が干上がり、南極大陸の氷がずれると言われている。「50年に一度」「100年に一度」という言葉が使えなくなってきている。そんな世の中で、総合的な学習の時間を使って子どもたちが主体的に学ぶ姿を作っていくことが非常に大切になってくる。

(3) 成果と課題

〈成果〉

- ・児童が主体的に学習していくためにどのような指導の工夫が必要か考えることができた。
- ・シンキングツールの使い方も児童に身に付き、ツールを選択しつつ学習することができるようになってきた。
- ・単元を通して児童が「身近なことにこつこつ取り組むことが大切だ」という気持ちをもつことができるようになってきた。

〈課題〉

- ・児童がアクションを分析する際にどのような観点で考えさせるかが今後の課題となってくる。「効果」という観点はグループによっては客観的に判断することが難しい。そのため、「効果」ではなく「実行しやすさ」に重きを置く必要があった。
- ・外来生物グループを解体してしまったが、子どもにアクションを行わせてから子どもたちの判断を待つべきだった。失敗させることも探究的な学びの一環だと考えられるようにしていく。

～6年生からの提案～

研究主題

主体的に課題を見つけ、探究的な学びを通して自分で解決しようとする児童の育成
～E S Dの視点による教育活動の推進～

1 児童の実態

- 明るく元気な児童が多い。
- 好奇心が強く、興味をもったことには意欲的に取り組むことができる。
- ▲自己肯定感が低く、難しいと感じるとそれを乗り越えることを諦めてしまう児童が多い。
- ▲論理的に考えることが苦手で、調べたことを系統的に整理したり、分析したりすることが苦手な児童が多い。

2 目指す児童像

地域の現状や課題について興味をもち、粘り強く調べ、問題を論理的に解決しようとする児童

3 主題に迫るための手立て

【探究のプロセス】

○指導計画の工夫

- ・「計画・調査・まとめ・共有」のスパイラル

○ポートフォリオの活用

- ・学習内容の振り返りを活用し、新たな疑問につなげたり、調査方法を工夫したりする。

○シンキングツールの活用

- ・調べた内容を整理して、新たな課題につなげるためにシンキングツールを活用する。

【共感・協働】

○地域との連携

- ・一緒に作ろう 世田谷区の未来計画
- ・学校運営委員
- ・保護者

○授業形態の工夫

- ・調査内容ごとのグループ学習
- ・中間発表の活用

○ICTの活用

- ・調査内容の共有
- ・情報の整理、分析の共有
- ・発表、まとめでの活用

第6学年 総合的な学習の時間 学習活動案

令和5年9月27日（水）5校時

6年2組38名

1 単元名 「玉堤の未来を考える」

2 単元について

(1) 単元の捉え方

本単元は、地域の未来に起こりうる課題について自分事として捉え、解決方法を考えていくことをめあてとしている。普段何気なく、当たり前のように過ごしている場所について目を向けさせることで、この地域の一員として、地域の将来に対する思いと責任をもたせることもねらいの一つとして考えている。

本校付近の地域は自然が豊かで暮らしやすいと言える。多摩川や等々力溪谷などの自然、地域の伝統的なお祭りや行事が大切に守られ、受け継がれている。しかし、近年の地球温暖化などの自然環境の変化や、コロナウィルスによってもたらされた生活様式の変化などから、失われつつあるものもある。

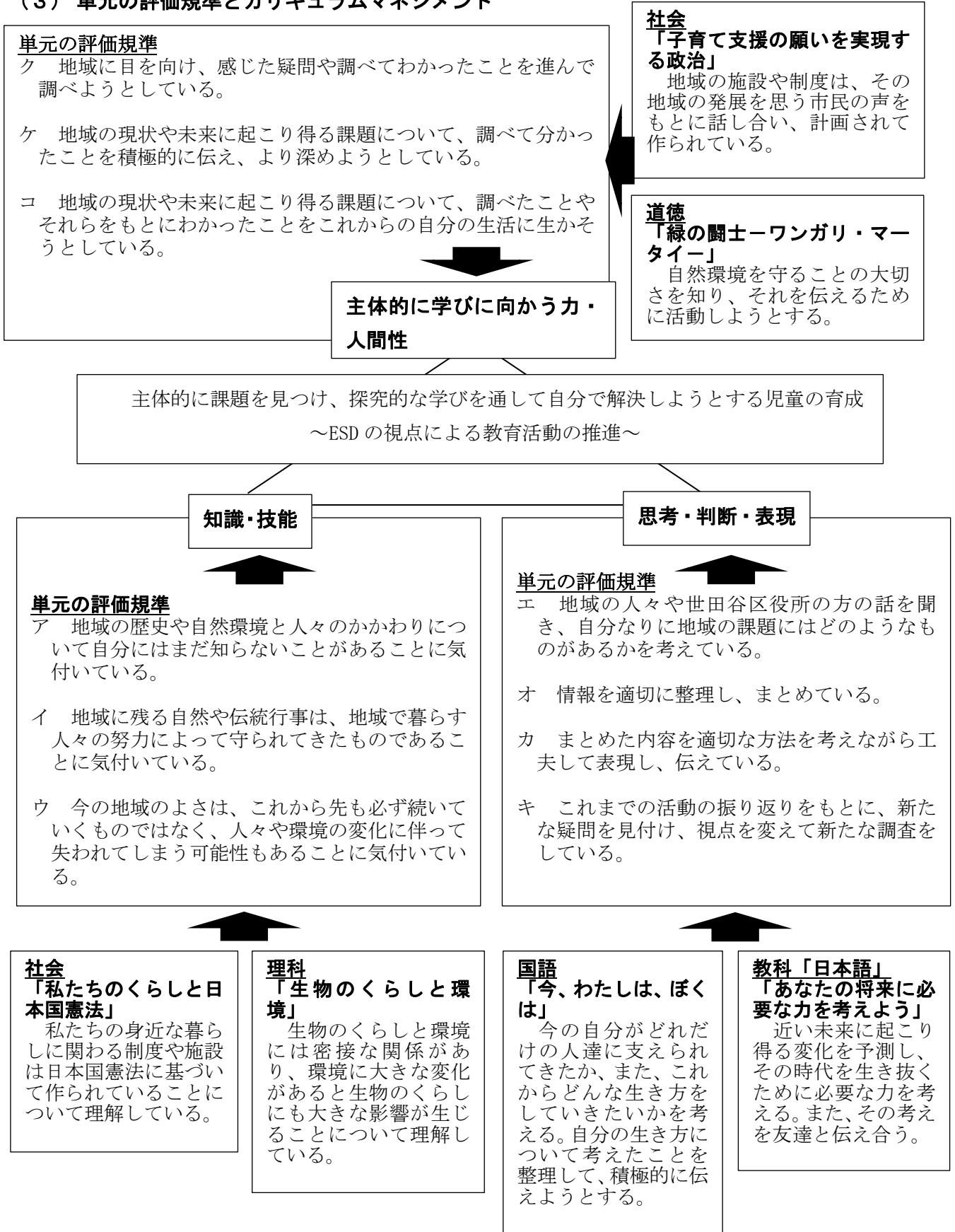
これまで住民たちが守ってきた伝統や自然の恩恵を当たり前のように受けてきた児童たちに、本単元を通して改めて地域の現状に目を向けさせたい。そして、近い未来に起こり得るかもしれない変化や問題について考えさせることで、もっと調べたい、知りたいという思いをもたせるとともに、地域の一員としての自覚をもたせ、自分事として深く考えさせたい。

(2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

自分たちが生活をしている地域について、探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返すことで、地域の現状や未来について興味を深め、意欲的に取り組むことができると考えている。また、実地調査やインタビュー、インターネットの活用などで得られた調査内容について、ICTを活用し、グループで話し合いながら整理し、まとめていくことで、情報を適切に処理し、論理的にまとめていく力が身に付くのではないかと考えられる。

自分たちにとって身近な地域について深く調べ、考える学習は児童にとって興味・関心をもちやすいと考えられる。興味・関心をもつことで学習に対する意欲が増し、学習の時間以外でも地域に目を向け、日常的な変化の観察をしやすい。変化に気付き、疑問をもち、自ら調べようとする力が身に付くことで、探究的な学習をより深く進めていく力を身に付けさせていく。

(3) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



(4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
問題解決能力	・話を聞いたり、自分たちが発見したりした玉堤が抱える問題点について、自分たちで調べたり、話合ったりすることで、解決する方法を見出す。
環境に配慮したライフスタイル	・この地域で、豊かな生活を長く継続していくために必要なライフスタイルを考え、実践に向けて具体的な提言を考える。

3 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。学習に対して興味をもち、進んで学ぼうとする姿勢を見せる児童もいる。また、仲間同士認め合い、励まし合う姿も見られる。

しかし、その一方で小学校生活のほとんどをコロナ禍の中で過ごしてきた彼らは、地域の自然や行事と関わる機会がとても少なく、それに伴って地域の人々との関わりもあまりないまま過ごしてきている。そのためか地域についての理解や愛着が低い。

本単元の学習を通して、地域に目を向け、進んで調べたり考えたりしていくことで、地域の一員としての自覚をもち、地域をより深く知りたい、地域のためにできることを考えたいという思いをもてるようにしたい。

4 単元の目標

地域に目を向け、現状の地域の課題と近い未来に起こり得る課題を考え、それに対してどのような対策を取っていけば課題を解決できるのかを地域資料や他地域の取り組み実践などをもとにして考え、情報を整理してまとめ、伝えることができるようにする。

5 単元の指導計画 40時間

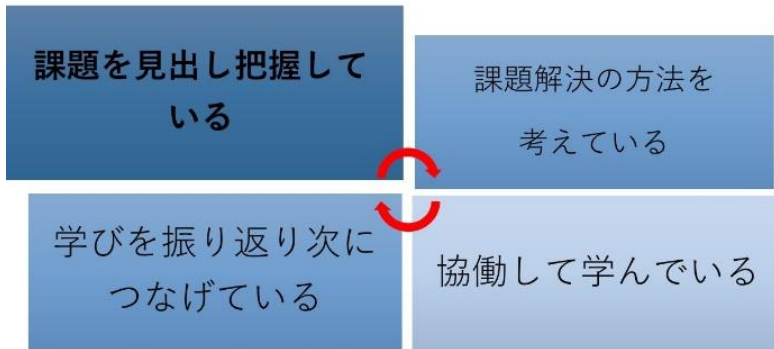
	ねらい	問題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価					
					知	思	主	方法		
玉堤の未来を考える①(7)	世界の課題から地域に目を向け、地域には様々な歴史と、解決すべき課題があることを知り、自分たちで地域についてももっと知りたいという思いをもつ。	つかむ② 調べる①(本時) 調べる③ まとめる①	○玉堤地域の現在の課題、これから起こり得る課題にはどのようなものがあるか考える。 ○集まった課題を分類、整理して、自分たちが地域に関するどのようなことを調べたいか決める。 ○調べたことを学級内で伝え合うために分かりやすくまとめる。 ○新たな疑問、さらに調べたいことを考える。	社会「私たちのくらしと日本国憲法」 理科「生物のくらしと環境」	ア		オ	ウ	エ オ	観察 発言 発表 学習用アプリ

玉堤の未来を考える⑫(12)	玉堤の現状と課題について調べ、伝え合うことで地域についての理解を深める。	つかむ② 調べる⑥ まとめる③ 伝える①	○さらに調べたいこと、課題の解決に必要なことについて考える。 ○地域の方へのインタビュー、現地調査、インターネットなどを活用して、地域の課題の現状と解決する方法を調べる。 ○学級内で伝え合うために、調べた情報や分かったことを工夫してまとめる。 ○中間発表を行う。	道徳「緑の闘士ワンガリ・マータイ」 社会「子育て支援の願いを実現する政治」	ウ	キ オ カ	ク ケ	発言 発表 学習用アプリ 発表ソフト
玉堤の未来を考える⑬(14)	玉堤の課題と今後起こり得る問題を解決する方法を考え、発表することで、地域についての理解を広げる。	つかむ① 調べる⑥ まとめる⑤ 伝える②	○似た内容を調べた児童どうしてグループを作り、情報を共有する。何をどのように伝えたいか話し合う。 ○グループで協力して話し合い、課題を解決する方法について話し合いながら調べる。 ○それぞれが調べた内容をもちより、情報を整理しながら発表に向けてまとめる。 ○調べたことを保護者、下級生に発表することで、地域についての思いを広げる。	日本語「あなたの将来に必要な力を考えよう」	ウ	キ オ カ	ク ケ	発言 発表 学習用アプリ 発表ソフト
玉堤の未来を考える⑭(7)	自分たちが調べてまとめた内容を、世田谷区に提出し、自分たちの意見の実現に向けて動き出す。	つかむ② 調べる・まとめる③ 伝える① 振り返る①	○発表を振り返り、玉堤の未来への提言を考える。 ○区役所に提出する「世田谷区の未来計画」に必要な情報を整理する。 ○作成した「世田谷区の未来計画」を区役所に提出する。 ○これまでの学習内容を振り返り、今後地域にどのように関わっていくかを考える。	国語「今、わたしは、ぼくは」	イ	キ オ	ク ケ コ	観察 発言 発表 区への提出資料 学習用アプリ



7 本時の指導

【せたがや探究的な学びのプロセス】



(1) 本時の目標

自分たちの住む地域の課題に目を向け、解決すべき課題を整理して考えることができる。

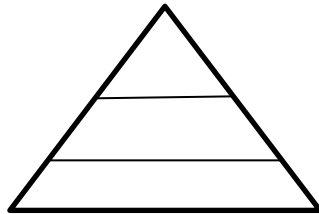
(2) 本時の展開 (3/40時間)

児童の活動	◆評価規準 () 評価の方法 ○留意点
1 活動・学習の流れを確認し、本時のめあてを知る。(3分)	○めあてを提示し、解決すべき課題を見極めることを意識させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分たちの住む地域の解決すべき課題について、 情報を整理しながら話し合おう </div>	
2 前時で出てきた地域の課題について、優先順位を付けてピラミッドチャートにまとめる。(20分)	○優先順位を付ける際、何を優先したらよいか考えさせる。 ・緊急性が高い ・取り組みやすい (自分たちにもできるか) ・生活への重要度 ・即効性 ・地域限定か全国的か ◆情報を適切に整理し、まとめている。 【オ 思考・判断・表現】(発言、ワークシート)
3 グループごとに発表をし、全体で解決していく課題を絞る。(17分)	○自分たちの意見と他グループの意見を比べて、これからの玉堤地域に必要なことを考えさせる。
4 本時を振り返る。(5分) <u>振り返りの視点</u>	○自分が解決していきたいと思う課題を見付けることができるよう、ワークシートを工夫する。

①何が分かったか ②何を考えたか (★) ③どう学んだか ④今日の学びでどんなことを思ったか ⑤次どんなことを知りたいか (★) ⑥自分なりに考える〇〇とは ⑦自分の生活で生かしたいことは	○振り返りの際、②と⑤の視点は必ず書き、プラスで他の視点も書いてよいことを伝える。
--	---

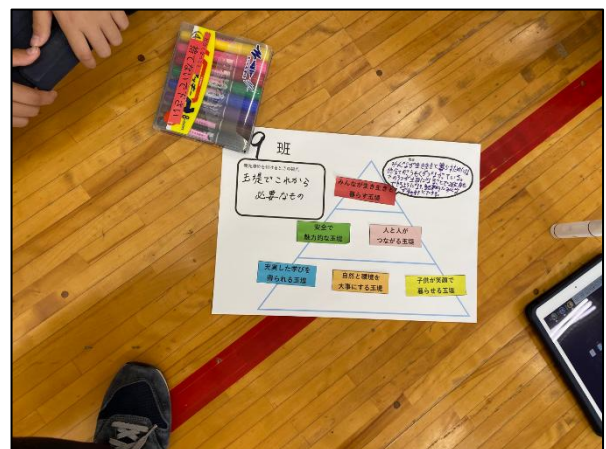
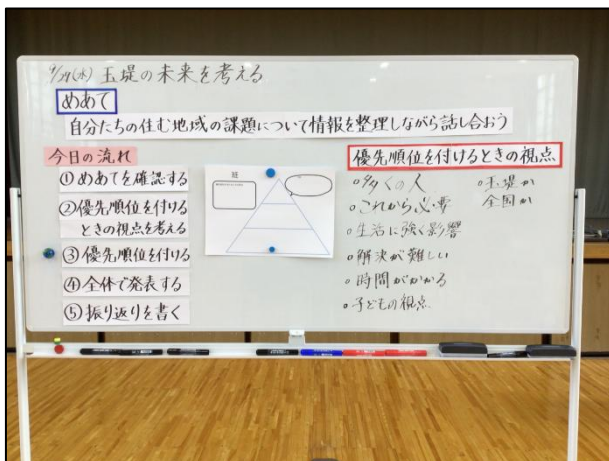
(3) 板書計画

課題 自分たちの住む地域の解決すべき課題について、情報を整理しながら話し合おう	
学習の流れ	～優先順位をつけるための視点～
①めあての確認する ②視点を考える ③優先順位を付ける ④全体で発表する ④振り返りを書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急性が高い ・ 生活への重要度 ・ 取り組みやすい ・ 即効性



8参観の視点

- (1) ピラミッドチャートで優先順位を付ける活動は、意欲的に課題解決に取り組む姿勢につながったか。
- (2) 振り返りの視点は、子どもたちの思考を深める手立てとして有効だったか。



9 参考資料 一緒につくろう 世田谷区の未来計画

一緒につくろう 世田谷区の未来計画

子どもの意見募集

世田谷区では、今後の世田谷を形作る未来計画をつくっています。未来を考えるうえで、次代を担う子ども・若者の考えを大事にしたいと考えています。

世田谷がより良いまちとなるためには、どのような取組みが必要だと思いますか？皆さんの意見を聞かせてください。一緒に世田谷の未来をつくっていきましょう。

この2次元コードを読み取って意見を投稿してね



<https://forms.office.com/r/LDEsX5bmYd>

とくに かまわれ 6つの取組み

01 子どもが笑顔で暮らせる世田谷

子ども・若者の笑顔で暮らせる世田谷の実現

- 児童福祉施設、児童相談所、児童養育施設、児童発達支援センター、児童相談所、児童養育施設、児童発達支援センター
- 児童相談所、児童養育施設、児童発達支援センター
- 児童相談所、児童養育施設、児童発達支援センター

02 充実した学びを得られる世田谷

新たな学校教育体系を基にした学びの実現

- 公立小学校、公立中学校、公立高等学校
- 公立小学校、公立中学校、公立高等学校
- 公立小学校、公立中学校、公立高等学校

03 人と人がつながる世田谷

多様な人種・民族、年齢、性別、国籍、言語、文化、価値観の共存

- 多様な人種・民族、年齢、性別、国籍、言語、文化、価値観の共存
- 多様な人種・民族、年齢、性別、国籍、言語、文化、価値観の共存
- 多様な人種・民族、年齢、性別、国籍、言語、文化、価値観の共存

04 みんなが生き生きと暮らす世田谷

誰もが生き生きと暮らせる世田谷の実現

- 誰もが生き生きと暮らせる世田谷の実現
- 誰もが生き生きと暮らせる世田谷の実現
- 誰もが生き生きと暮らせる世田谷の実現

05 自然と環境を大切にせる世田谷

自然と環境を大切にせる世田谷の実現

- 自然と環境を大切にせる世田谷の実現
- 自然と環境を大切にせる世田谷の実現
- 自然と環境を大切にせる世田谷の実現

06 安全で魅力的な世田谷

安全で魅力的な世田谷の実現

- 安全で魅力的な世田谷の実現
- 安全で魅力的な世田谷の実現
- 安全で魅力的な世田谷の実現

22の分野別政策

01 子ども・若者

子ども・若者の未来を担う政策

- 子ども・若者の未来を担う政策
- 子ども・若者の未来を担う政策
- 子ども・若者の未来を担う政策

02 教育

教育の充実と学びの機会を創出

- 教育の充実と学びの機会を創出
- 教育の充実と学びの機会を創出
- 教育の充実と学びの機会を創出

03 健康・福祉

健康と福祉の向上を推進

- 健康と福祉の向上を推進
- 健康と福祉の向上を推進
- 健康と福祉の向上を推進

04 災害・危機管理

災害・危機管理の強化

- 災害・危機管理の強化
- 災害・危機管理の強化
- 災害・危機管理の強化

05 環境・リサイクル・みどり

環境・リサイクル・みどりの推進

- 環境・リサイクル・みどりの推進
- 環境・リサイクル・みどりの推進
- 環境・リサイクル・みどりの推進

06 経済・産業

経済・産業の活性化

- 経済・産業の活性化
- 経済・産業の活性化
- 経済・産業の活性化

07 文化・スポーツ

文化・スポーツの振興

- 文化・スポーツの振興
- 文化・スポーツの振興
- 文化・スポーツの振興

08 都市整備

都市整備の推進

- 都市整備の推進
- 都市整備の推進
- 都市整備の推進

09 人権・コミュニティ

人権・コミュニティの促進

- 人権・コミュニティの促進
- 人権・コミュニティの促進
- 人権・コミュニティの促進



(1) 研究協議

① 学年より

- ・明るく元気な子が多い。興味があると頑張れるが、そうでないと頑張れない。
- ・地域への視点がコロナの影響で少ない。
- ・興味、やる気をもたせて、自分事として地域のことを考えてもらいたい。
- ・世田谷区未来計画（子供の意見募集）に向けて取り組んだ。
- ・昨年のエシカルをもとに、6つの課題について考えさせた。
- ・世界→日本→地域と課題を知ったうえでこの課題として落とし込んでいきたい。
- ・話し合いの様相としては、実りのある展開になっていたのではないか。

② 授業者自評

- ・子どもたちは世田谷区に自分たちの意見を届けるために一生懸命に頑張っていた。
- ・本時の中で大切にしたのは、優先順位を話し合うこと。
- ・1組では視点を出し合うときに多くの意見が出たが、時間の関係で話し合いの時間を多く設けた。実態的に難しいものでも、子どもたちは頑張っていた。
- ・昨年度から行っている振り返りの視点を継続していることで、スムーズに振り返りができていた。

③ グループ協議より

【ピラミッドチャート】

- ・子どもたちから考えさせた視点をもとに考えたことで面白かった。
- ・友達の見解と食い違うことで話し合う必然性生まれていた。
- ・優先順位は決めるが、どの視点も大切だということを意識づけられた。
- ・話し合う意欲を引き出すのに有効だった。
- ・視点を決める理由をはっきりさせたかった。

- ・前時までに出了学級の意見を生かして話し合うとより整理した話し合いになったのではないか。
- ・見やすく使いやすそうだった。
- ・子どもがすることが分かりやすくなっていた。
- ・自分たちの言葉から出した視点について話し合わせたのでスムーズだった。
- ・視点は身近なものでよいのではないか。
- ・次時以降どう扱うのか。

【振り返り】

- ・昨年からの積み重ねができていた。
- ・7つの視点はどう決めたのか。
- ・視点を絞った理由は？②友達や他グループの意見との違いについて考えさせたかった。
- ・めあて「話し合おう」→ねらいとしていたことは「整理して考えよう」
- ・昨年度からの継続で、とてもよく考えていた。
- ・総合的な学習の時間の振り返りの視点があつたら知りたい。
- ・②と④の違いは？玉堤スタンダードにできないか。

(2) 指導・講評【講師：世田谷区立教育委員会指導主事 高橋裕也 先生】

- ・総合独自の振り返りについては、振り返りをさせる目的による。学習の振り返りを丁寧に行いたいのか、教師側の狙いに対する自分自身の振り返りの材料とするのか。
- ・課題意識をもたせるポイント→以前は、教師が「問う人」子どもは「答える人」今は子どもが「問う人」
- ・実社会の課題について、知識・技能を活用・発揮しながら、異なる多様な他者と共同して解決に向かう人材→ポストコロナに必要とされる人材
- ・答えのない課題について達成していくための視点を考える素地が大切。
- ・ゴールの示し方を子どもたちに示すのは大切。意欲付けや見通しをもった取り組みにつながる。

(3) 成果と課題

成果

- ・優先順位を付ける際、優先順位を付けるための視点をグループで決めたことで、話し合いがスムーズにできていた。
- ・どのグループも自分の意見をしっかりと伝えて、話し合いを深めることができていた。
- ・振り返りの視点を継続的に活用しているため、振り返りが学びに生きるようになってきている。

課題

- ・優先順位の視点をグループごとに決めたが、学級全体で統一してもよかった。
- ・振り返りの視点を、総合的な学習の時間に合わせたものにする、より学びに生かされる。

Ⅲ 成果と課題

【成果】

- ・思考ツールを使って児童の考えを深めることができるようになってきた。
- ・年間を通した思考ツールの活用ができるようになってきた。
- ・話し合いの場面では、思考ツールを活用したことにより、話し手から聞き手への一方通行の話が少なくなってきた。
- ・学びのサイクルを意識して活動に取り組めるようになってきた。
- ・児童の実態、学習の内容に合わせてどのような思考ツールを活用するかを適切に判断できるようになってきた。
- ・探究的な学びのサイクルを意識してカリキュラムマネジメントを組むことができるようになってきた。



学校全体として、「思考ツール」「せたがや探究的な学び」を意識して学習をマネジメントすることができるようになってきた。また、教員が「思考ツール」「せたがや探究的な学び」を理解することができてきたので、自分たちで授業改善を行えるようになってきた。

【課題】

- ・チャートの活用の意図を明確にする必要がある。→分類するためなのか？発見するためなのか？
- ・子供の主体性を大切にして、児童が考える余地を残した授業デザインが必要。
- ・教師側がルールを敷いてしまう場面があった。児童は、教師の示したものを「善」として、受け入れてしまうものである。児童が「考えて判断する」という流れを意識することが必要。
- ・子供の気付き、思いを軸にして学習を進める教師側の余裕が必要。
- ・教科と生活科、総合的な学習の時間を関連させようという気持ちが教師側に芽生えてきたが、まだ関連が薄い傾向にある。



生活科、総合的な学習の時間では、児童の主体性を軸に活動していくことが求められる。今年度の実践では、まだ手放して児童に任せることができていない。今後は、児童に任せて得られる成果を教師側が味わえるようにしていくのが課題となってくる。

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（1年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	季節をたのしもう 春		季節をたのしもう 夏		季節をたのしもう 秋					季節をたのしもう 冬	はるなつあきふゆ	
算数					かずをせいりして					大きなかず		
国語	はなのみち	ききたいなともだちのはなし	すきなものなかに		ききたいなともだちのはなし	しらせたいな見せたいな	ともだちのことしらせよう		ききたいなともだちのはなし	これはなんでしょう	いいこと いっぱい一年生	
生活	はるみつけ	なつだどびだそう		いきものとなかよし		みんなにこにこ だいさくせん		ふゆともだち	私たちの生活と森林			
	なかよしいっぱい だいさくせん		さかせたいな わたしのはな		あきといっしょに		もうすぐみんな2年生 保育園交流		生活発表会	もうすぐみんな2年生		
					見つける → 考える → いっしょに → つなげる		見つける → 考える → いっしょに → つなげる					
特別道徳	ありがとう つばめ				わたしがおねえさんよ		あとかたづけ	おふるぼそうじ		花のかんむり		
特別活動			おたのしみかいをしよう				おたのしみかいをしよう		6年生送るかいのじゅんぴをしよう	新1年生を迎えるじゅんぴをしよう		
音楽	はくにとってリズムをうとう				みのまわりのおとにみみをすまそう				みんなであわせたのしもう			
図工			さらさらどろどろいい気持ち		はことはこをくみあわせて							
行事	運動会						展覧会		6年生を送る会			

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（2年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日本語	季節を感じる ことばをさがそう										昔から伝わる 遊びを楽しもう	一年間の学習を 振り返ろう	
算数											はこの形		
国語	春がいっぱい	たんぼぼのちえ かんさつ名人 になるろう	こんなもの	夏がいっぱい		秋がいっぱい	馬のおもちやの 作り方		冬がいっぱい			楽しかったよ 2年生	
生活	わくわくするね 2年生	ぐんぐんそでおいしいやさい			小さなもたち	花をそでてよう		あそんでためしてくふうして		広がれ わたし			
		↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	
		↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	
		↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	
		↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓	
特別な教科 道	大きくなったね	いいところ みつけた		虫が大すき -アンリ・ファーブル-									
特別活動	2年生に なって												
音楽											日本のうたで つながろう	感謝の心を もとう	一年間を 振り返ろう
図工	みんなでワイワイ 紙けん玉							めざせ！カッター ナイフ名人	くっつき マスコット	かぶって へんしん			
行事											6年生を送る会		

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（3年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	世田谷の地名の由来・郷土カルタ											
国語	春のくらし			夏のくらし	言語活動の基礎を身に付ける			秋のくらし	冬のくらし	ありの行列	総合発表会	
社会	わたしたちの町たんけん				世田谷区の特徴を理解する							
					農家の仕事							
理科	しぜんのかんさつ	植物を育てよう	ぐんぐんのびろ ちょうをそだてよう	花がさいた	花がさいた					冬から春へ		
総合	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; text-align: center;"> <h3 style="margin: 0;">多摩川探検隊</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">二子玉川公園</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植物・虫・魚の観察</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">等々力溪谷</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">二子玉川公園</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">等々力溪谷</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">等々力溪谷</div> </div> </div>											
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> ビオトープ </div>											
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> バイオミメティクス </div>											
	活動	課題設定	調査	課題設定・計画	活動	整理分析	中間発表	調査結果の統合	発表			
特別な教科 道徳			ごめんねサルビアさん	みんなのわき水		流行おくれ			ジュースの空き缶			
行事	遠足 二子玉川公園		校外学習 二子玉川公園									

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（4年）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日本語								一冊の本から 一本を読んで友達に伝えようー				
国語	こんなところが 同じだね	思いやりのデザイン 聞き取りメモのくふう	新聞をつくらう 事実にもとづいて書かれた本を読もう		あなたなら、どう言う パンフレットを読もう		百科事典の調べ方	世界にほこる和紙		調べて話そう、 生活調査隊		
社会			自然災害から人々を 守る						ごみの処理と利用			
算数		折れ線グラフ		がい数			整理のしかた					
理科		人の体のつくりと運動										
総合	だれもが関わり合うために				パラリンピック種目を作ろう				ごみごみダイエット大作戦			
	つかむ → 調べる → まとめる → 発表する				つかむ → 調べる → まとめる → 発表する				つかむ → 調べる → まとめる → 発表する			
特別な教科道		決めつけないで	ええことするのは ええもんや!		いじりといじめ		心と心のあくしゅ					
特別活動					友達のよいところを みつけよう		性の多様性 (養護教諭との連携)					
その他		【保健体育】 育ちゆく体とわたし	【外国語活動】 お気に入りの場所を紹介しよう									
									○ゲストティーチャー ・社会福祉協議会 白杖・車いす体験 全盲の方の講話 ・笑顔と学びの体験活動プロジェクト 車いすバスケットボール 体験講話 ・日本ゴールボール協会			

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（5年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	新聞記事を読んで考えよう											
国語	聞いて聞いて聞いてみよう		みんなが過ごしやすい町へ		言語活動の基礎を身に付ける			よりよい学校生活のために		固有種が教えてくれたこと		提案しよう言葉とわたしたち
社会	暮らしを支える食料生産		これからの食料生産とわたしたち		国土の地理的環境の特色を理解する					私たちの生活と環境	私たちの生活と森林	
理科	種子の発芽と成長				実や種子のでき方				冬から春へ			
総合	<p style="text-align: center;">地球を救うわたしたち</p> <p style="text-align: center;">夏休み Action! グループ Action!</p> <p>地球の現状を知る 世界の取り組みを知る 夏休みのアクションを振り返る。 アクションに必要なことを考える。</p> <p>課題設定 調査 まとめ 課題設定 計画 整理分析 調査活動 まとめ 総合発表</p>											
特別な教科道徳	一ふみ十年		ぼくたちの夏休み自由研究		真由、班長になる			流行おくれ				
家庭科								ものを生かして住みやすく		持続可能な暮らしへ物やお金の使い方		
行事				川場移動教室								

世田谷区立玉堤小学校 令和5年度ESDカレンダー（6年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	職業について理解し、誰かのために働くとする態度を養う。											
国語				聞いて考えを深めよう	みんなで楽しく過ごすために	言語活動の基礎を身に付ける			今、わたしは、ぼくは	海の命		
社会	わたしたちのくらしと日本国憲法	子育て支援の願いを実現する政治		社会の仕組みと平和につながる人々のはたらきに気付くことができる。			世界に歩み出した日本	日本とつながりの深い国々	世界の未来と日本の役割			
理科	植物の養分と水		生物のくらしと環境		大地のつくりと変化			人と環境				
家庭科	わたしの生活時間	暑い季節を快適に		ものを生かして住みやすく		持続可能な暮らしへ物やお金の使い方						
総合	玉堤の未来を考える											
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p>【持続可能な社会の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会 ・循環型社会 </div> <div style="width: 15%;"> <p>GTによるお話</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>目指す玉堤像を考える</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>解決方法</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>中間発表</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>課題設定</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>調査活動</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>整理分析</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>まとめ</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>総合発表</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">課題設定 → 調査 → 目指す玉堤像を考える → 解決方法 → 中間発表 → 課題設定 → 調査活動 → 整理分析 → まとめ → 総合発表</p>											
特別な教科道				緑の闘士 —ワンガリ・マータイ—				天下の名城をよみがえらせる—姫路城—	iPS細胞の向こうに			
特別活動	卒業に向けて											
体育	病気の予防											
図工	よりよい町とは											
音楽	龍神太鼓		世界の国々の音楽									
行事					日光林間学園			エコプロ				